＃14【収穫】
業務フロー最新化

Agenda

01 本課題について

02 整理内容

03 ご相談・確認事項

本課題について

本紙では課題一覧の14について整理・検討する。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブ システム	課題タイトル	課題内容	優先度
14	収穫	業務フローの最新化（収穫）	業務フローに対して大きく2点対応する必要がある。 ①R5年時点の概要業務フローは規約から、詳細業務フローはシステムから書き起こしただけであり、十分な議論ができないままの状態となっているため、現行業務の内容を反映する。 ②令和７年度に構築中の立木販売、樹木採取権、製品生産、製品販売サブシステムにおけるデータベースの正規化やシステム機能の改廃を考慮し、システム化範囲を見直す。	高

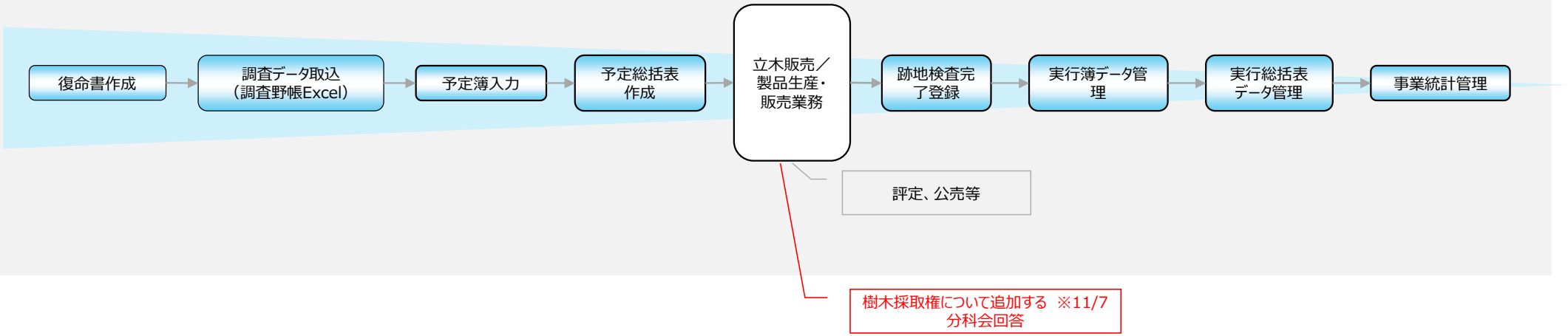
②は別課題で対応しているため、課題#14については1.業務概要フロー、2.詳細業務フローの最新化が検討対象

整理内容

収穫の概要業務フローについて、確認した結果については以下の通り。

- 現時点で、収穫業務の概要としては国有林野情報管理システムに関連する点では網羅されている
- 業務フローの幹ではなく枝部分（樹高データ登録等 ）については概要業務フローとしては載せない方針の理解
  （枝部分も含めて記載する必要があるのは詳細業務フローの理解）
- 払出登録の追加を検討する
  →払出登録について追加する　※11/7 分科会回答

現在の概要業務フロー
（青背景は収穫サブシステムの範囲）



ご相談・確認事項

- ✓ 概況業務フロー上に、払出登録は不要でしょうか

- ✓ 現行の概況業務フローでPJMO様の観点で違和感がある箇所があればご指摘いただけないでしょうか

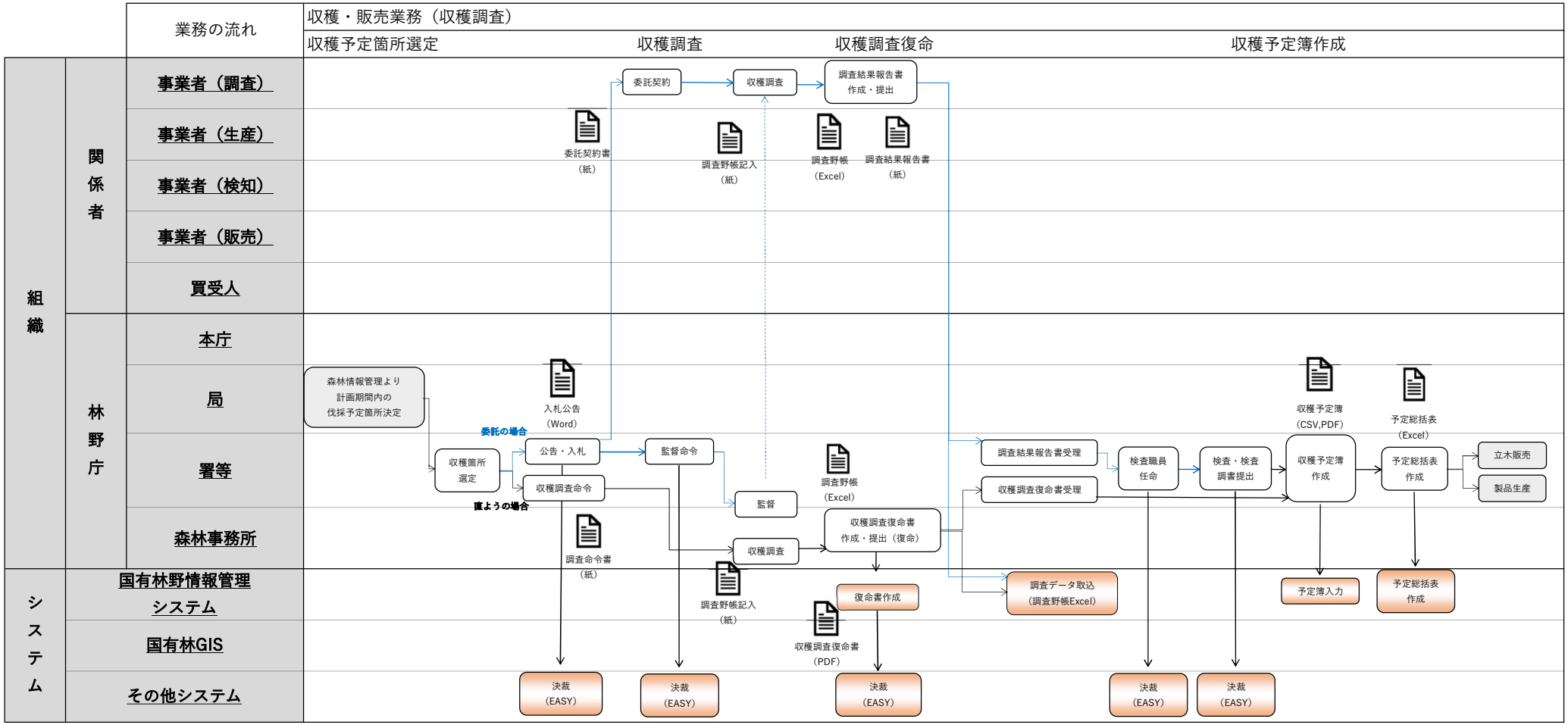
- ✓ 業務フロー最新化の実施タイミングについて、以下日程で調整させていただくことは可能でしょうか

  概要業務フロー：12月納品（12/19）、3月納品

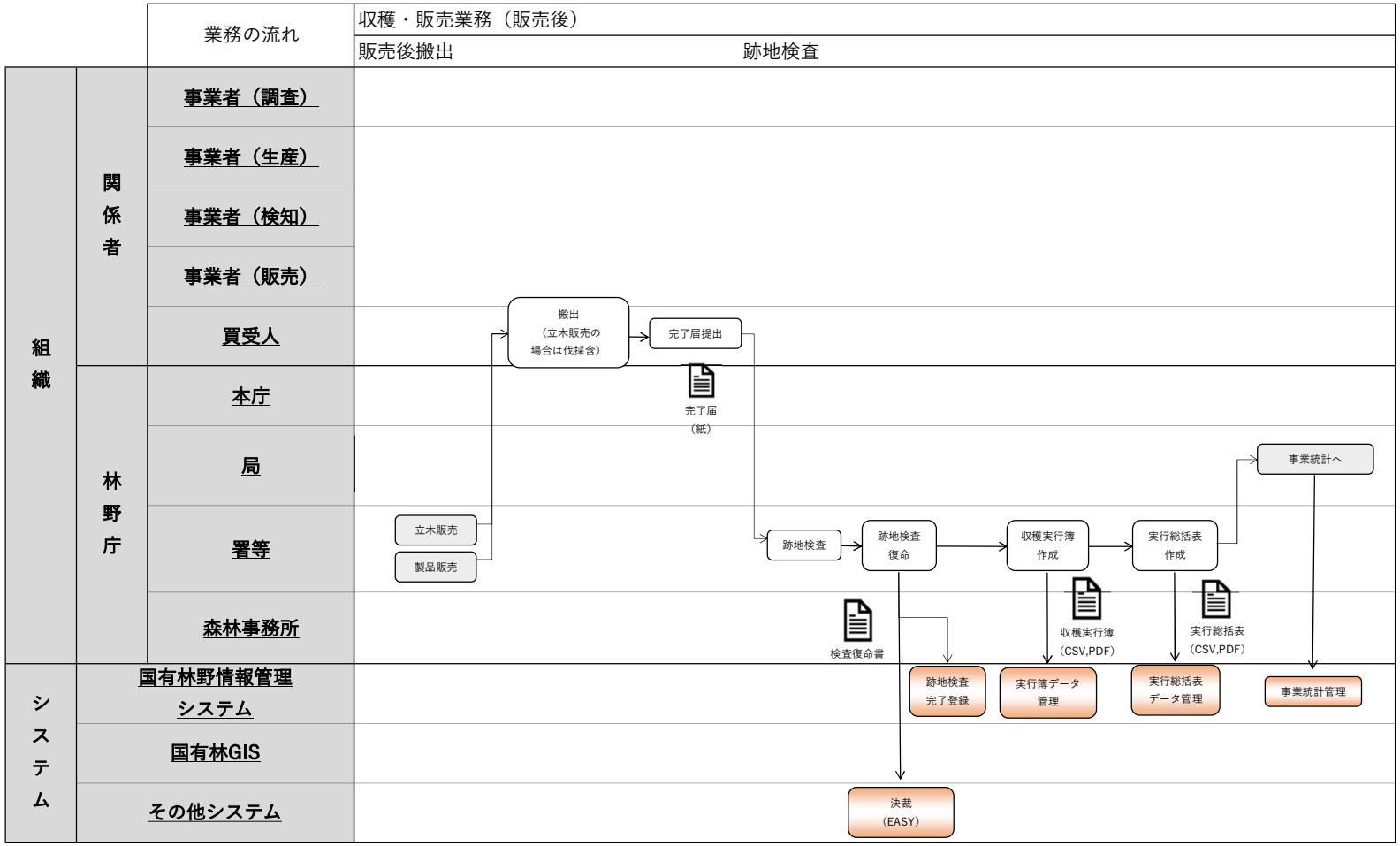
  詳細業務フロー：3月納品

  →詳細フローについては不要　※11/7 分科会回答

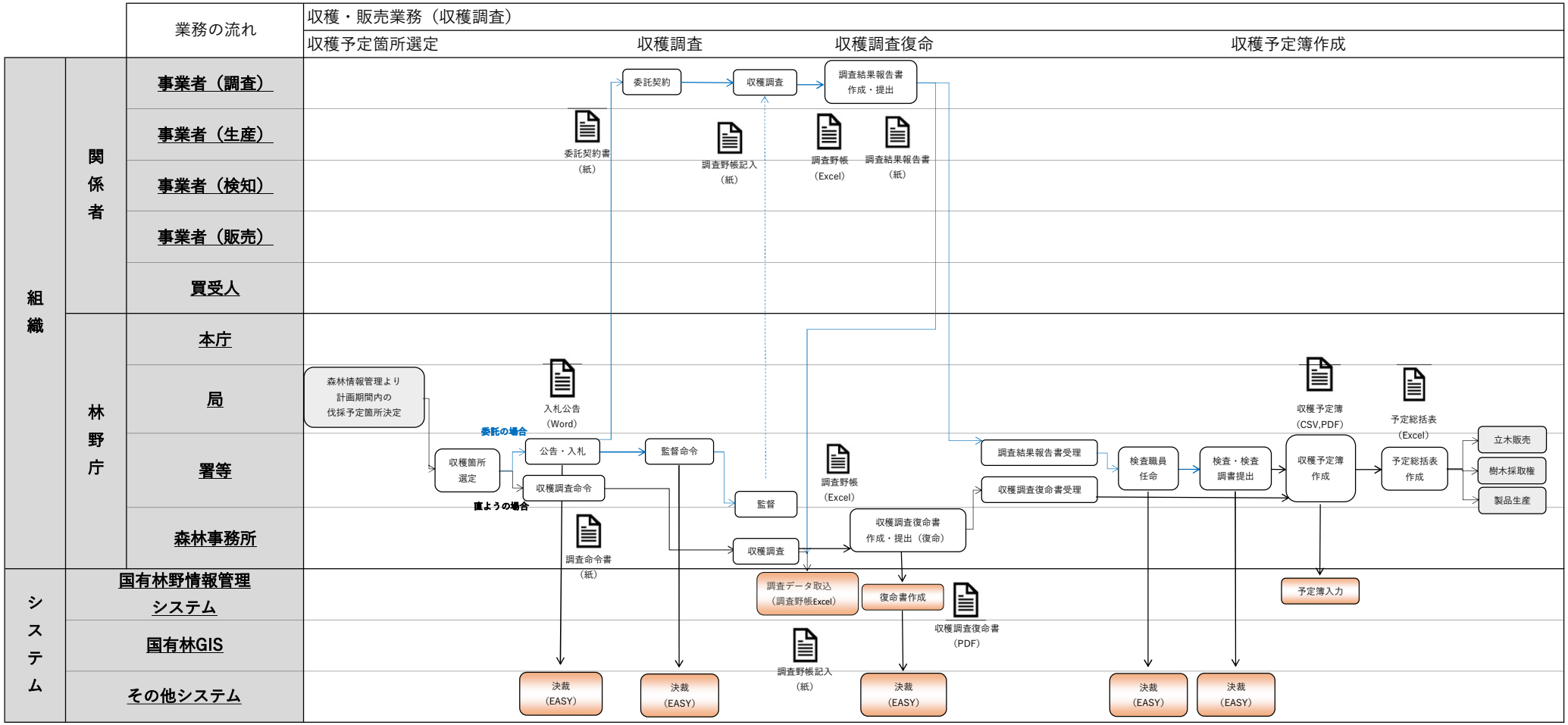
別紙1-1_概要業務フロー T02 収穫__AS_IS



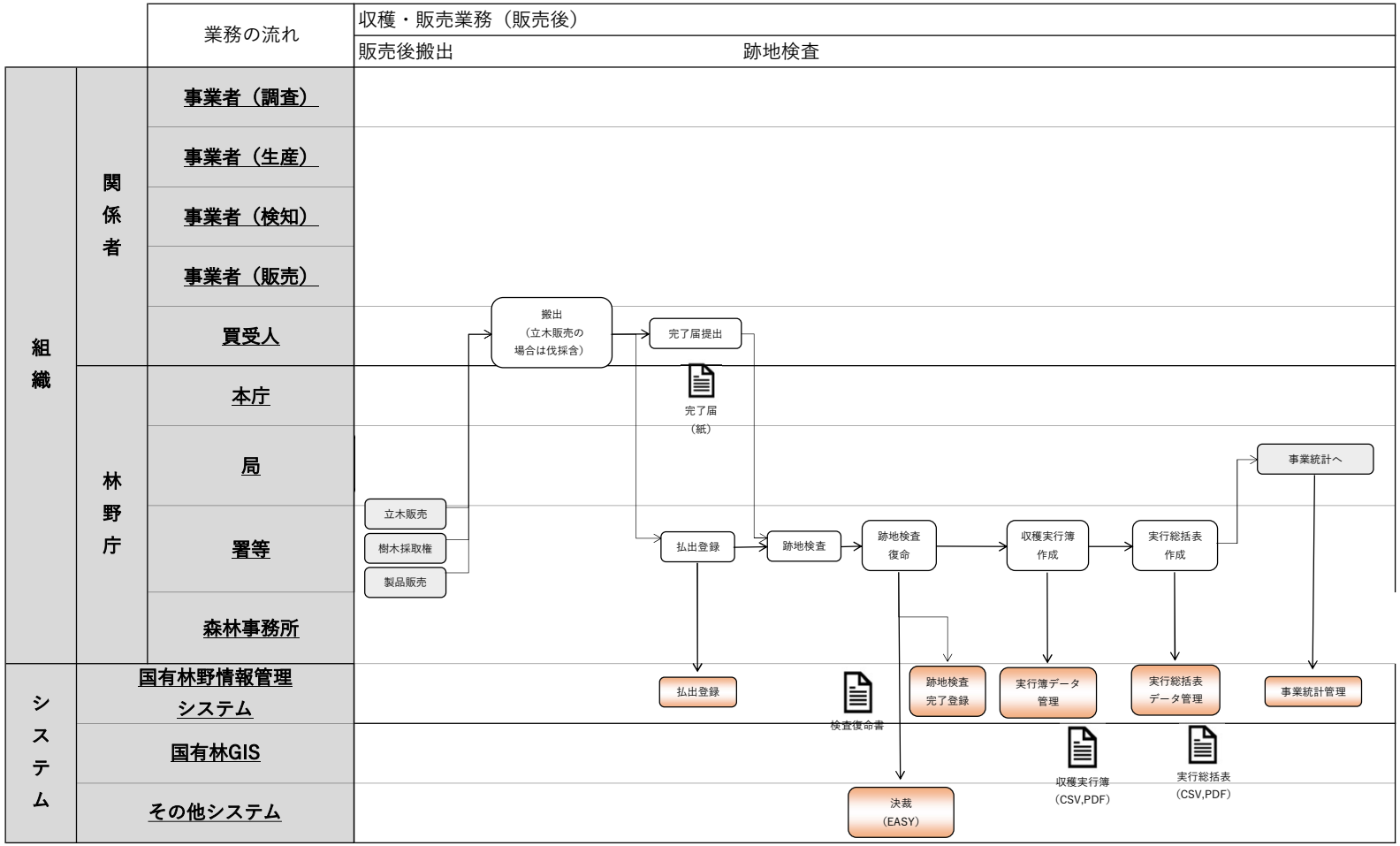
別紙1-1_概要業務フロー T02 収穫__AS_IS



別紙1-1_概要業務フロー T02 収穫_TO_BE



別紙1-1_概要業務フロー T02 収穫_TO_BE



＃18･23【収穫】
面的複層林の対応検討
伐採面積･伐率の報告方法

Agenda

01 本課題について

02 対応内容の確認

本課題について

本紙では課題一覧の内、＃18および＃23について整理・検討する。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブ システム	課題タイトル	課題内容	優先度
18	収穫	面的複層林化の対応検討	面的複層林（一定のエリアに含まれる林地をいくつかの伐区を決めて皆伐し、複層林化する）化も進められる可能性があり、小班の概念を超えた団地とした施業に対し、システム上どのような野帳、復命書とすべきか整理する必要がある。 ▼補足 ・収穫だけでなく面的複層林としての施業のあり方が決まらないと、復命書をどうするかの議論ができない。 議論ができないのであれば、現状維持とする方向しかないか。（本紙＃2の課題で方針がある程度整ってからの検討になる）	高
23	収穫	伐採面積・伐率の報告方法	複層伐の収穫量の報告方法（収穫量の復命）が担当者によって異なるため、統一する必要があるか検討する。 対応するとなった場合、伐率を復命書に持つ必要が出てくるかもしれない。 報告例）10haの林小班に対し、50%の伐採を一団として行う場合 ①伐採面積5ha、伐率100% ②伐採面積（小班全体が伐採対象と認識）10ha、伐率50% ←これが正の報告方法？ ③伐採面積5ha、伐率50%	中

弊社理解

面的複層林については、本来は林小班をまたがった施業のため面的複層林全体で管理・考慮をする必要がある概念。

ただし、収穫SSにおいては取り扱う復命書の単位は林小班（もしくはさらに目的・用途に沿って林小班をより細分化した単位）となるため、面的複層林施業対象である場合は、同一の施業対象であることが複数の復命書にまたがって把握・管理できるようにする必要がある。

対応内容の確認

収穫においては、復命書単位で面的複層林を管理する。

■ 主な対応内容・確認事項

対応内容		確認事項
面複番号	復命書入力画面上にラベル項目の追加（=森林情報管理から取得のため入力はさせない）	• 複層伐の場合のみ画面項目を表示するか →項目は複層伐に限らず表示する
計算式	複層伐の場合、 • 調査区域に小班面積を自動表示 • 現行の複層伐以外の計算ロジックをなくし、自由入力とする	• a >= c & c > b のバリデーションは不要か →上記バリデーションを実装する

【入力方法・バリデーション整理】
■皆伐、間伐（現行から変更なし）
a調査区域：小班面積を自動出力※修正可能
b収穫除地：自由入力
c収穫区域：a-b（ラベル）

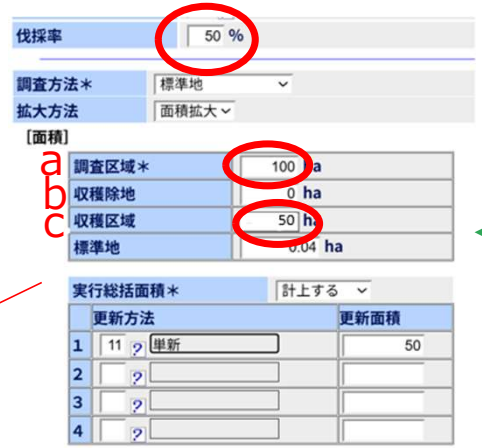
■複層伐
a調査区域：小班面積を自動でラベル表示※修正不可
b収穫除地：自由入力
c収穫区域：必須項目の自由入力
※バリデーション：a >= c & c > b を満たすこと

■ その他　確認事項

- 複層伐であることの判断基準を何にするべきか
  →伐採方法「複層伐」「複層管理伐」「複層整理伐」の場合、複層伐として判断
- 複命書以外で面複番号を表示させる必要があるか
  （野帳や帳票上で入出力する必要があるのか）
  →復命書以外は不要

＃23 確認事項
伐採面積・伐率の報告方法について
複層伐の報告パターンは②になる認識で良いか
→報告パターン②でOK

複層伐が正しく集計されるために



※ 計算式の分岐
① 複層伐以外：a-b=c
a, b：手入力、c：自動
② 複層伐：a＝小班面積：自動
b, c 手入力

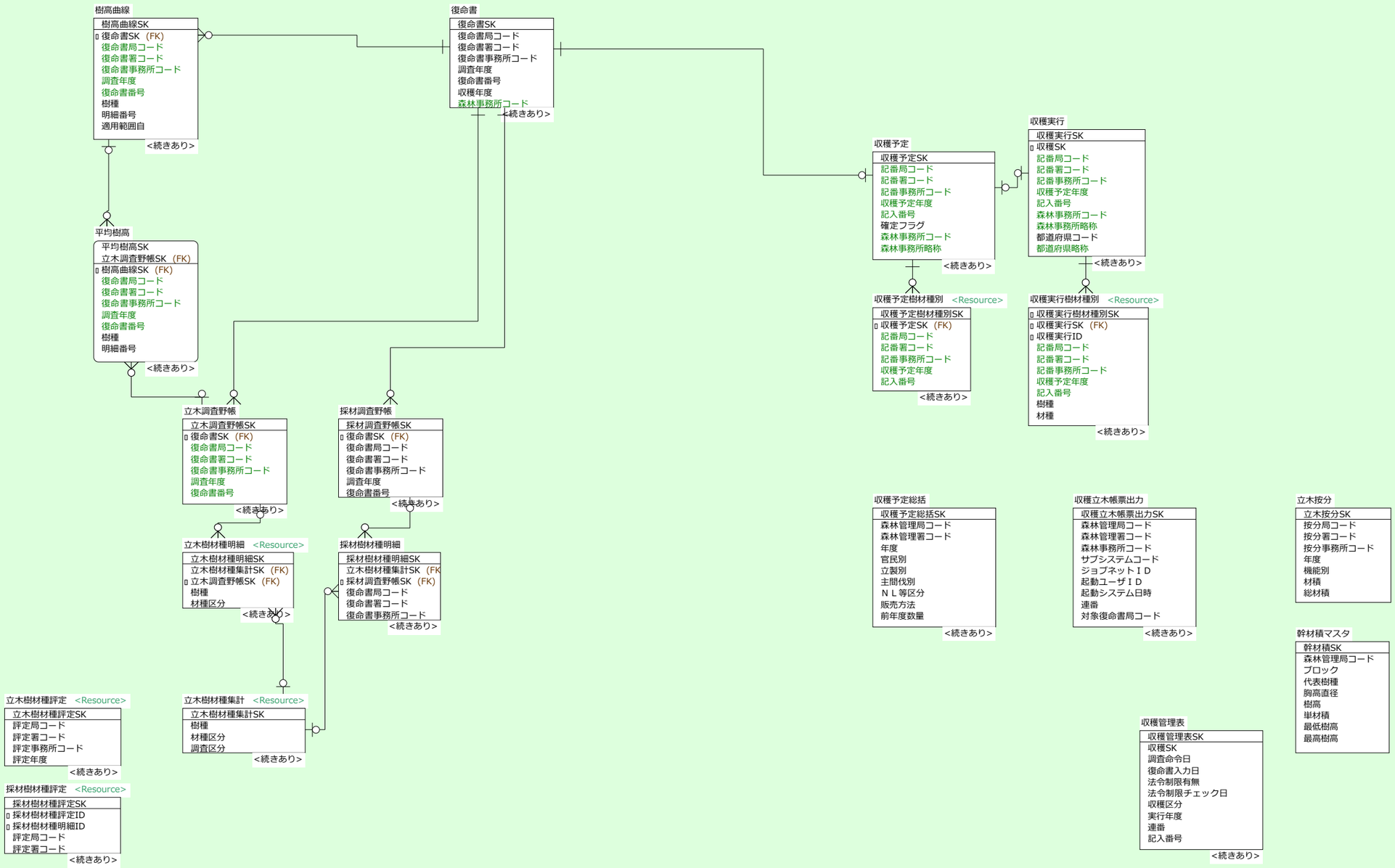
複層伐対象の面積ここでは100ha

※ 拡大対象は「収穫区域」

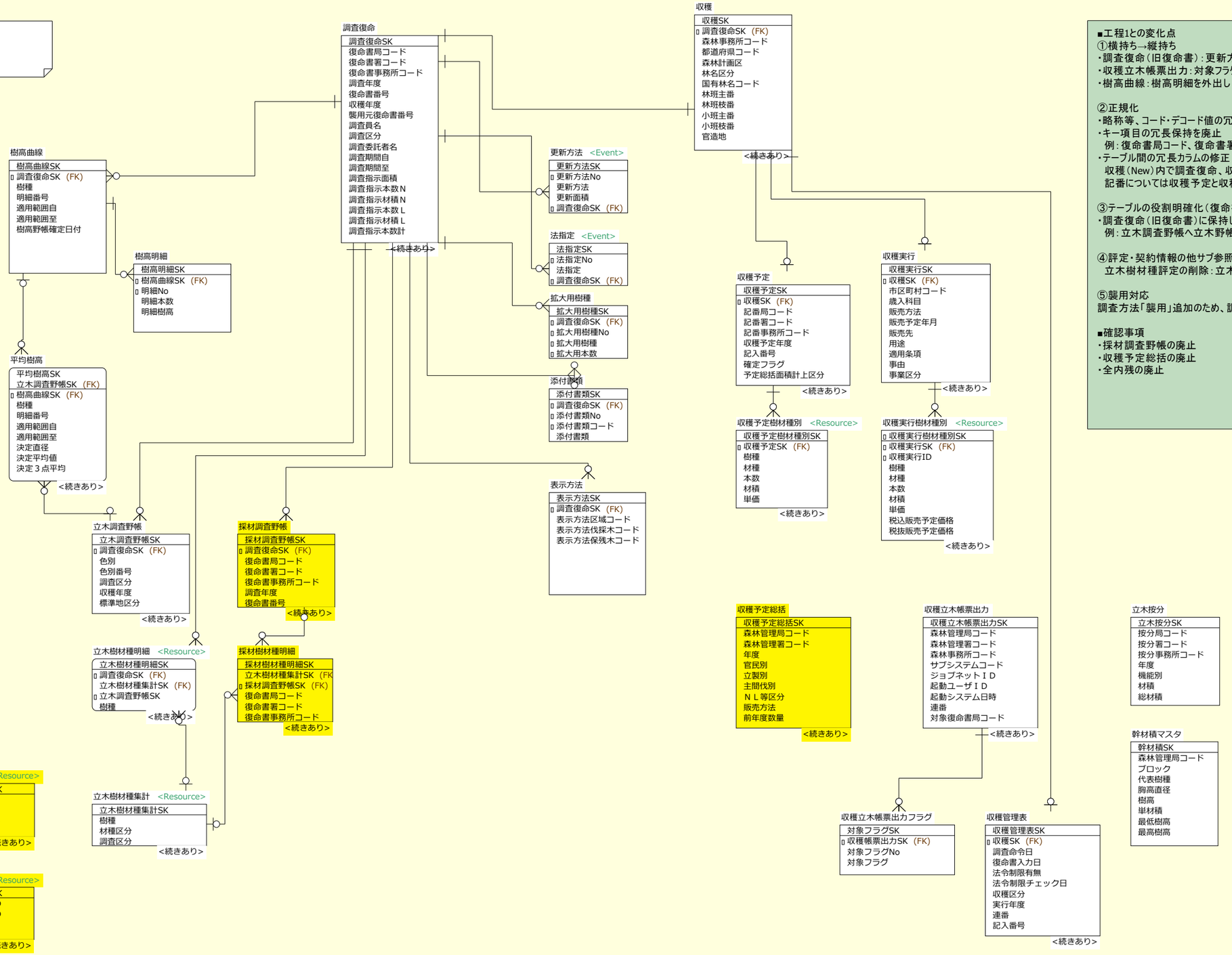
※ 面複対応として、復命書に「面複番号」追加

※1125版「復命書における複層伐の実装.pptx」より抜粋

収穫　AS IS


樹高曲線
樹高曲線SK
復命書SK （FK）
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
調査年度
復命書番号
樹種
明細番号
適用範囲自
<続きあり>
復命書
復命書SK
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
調査年度
復命書番号
収穫年度
森林事務所コード
<続きあり>
平均樹高
平均樹高SK
立木調査野帳SK （FK）
樹高曲線SK （FK）
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
調査年度
復命書番号
樹種
明細番号
<続きあり>
立木調査野帳
立木調査野帳SK
復命書SK （FK）
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
調査年度
復命書番号
<続きあり>
採材調査野帳
採材調査野帳SK
復命書SK （FK）
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
調査年度
復命書番号
<続きあり>
収穫予定
収穫予定SK
記番局コード
記番署コード
記番事務所コード
収穫予定年度
記入番号
確定フラグ
森林事務所コード
森林事務所略称
<続きあり>
収穫実行
収穫実行SK
収穫SK
記番局コード
記番署コード
記番事務所コード
収穫予定年度
記入番号
森林事務所コード
森林事務所略称
都道府県コード
都道府県略称
<続きあり>
収穫予定樹材種別 <Resource>
収穫予定樹材種別SK
収穫予定SK （FK）
記番局コード
記番署コード
記番事務所コード
収穫予定年度
記入番号
<続きあり>
収穫実行樹材種別 <Resource>
収穫実行樹材種別SK
収穫実行SK （FK）
収穫実行ID
記番局コード
記番署コード
記番事務所コード
収穫予定年度
記入番号
樹種
材種
<続きあり>
立木樹材種明細 <Resource>
立木樹材種明細SK
立木樹材種集計SK （FK）
立木調査野帳SK （FK）
樹種
材種区分
<続きあり>
採材樹材種明細
採材樹材種明細SK
立木樹材種集計SK （FK）
採材調査野帳SK （FK）
復命書局コード
復命書署コード
復命書事務所コード
<続きあり>
立木樹材種集計 <Resource>
立木樹材種集計SK
樹種
材種区分
調査区分
<続きあり>
立木樹材種評定 <Resource>
立木樹材種評定SK
評定局コード
評定署コード
評定事務所コード
評定年度
<続きあり>
採材樹材種評定 <Resource>
採材樹材種評定SK
採材樹材種評定ID
採材樹材種明細ID
評定局コード
評定署コード
<続きあり>
収穫予定総括
収穫予定総括SK
森林管理局コード
森林管理署コード
年度
官民別
立製別
主間伐別
ＮＬ等区分
販売方法
前年度数量
<続きあり>
収穫立木帳票出力
収穫立木帳票出力SK
森林管理局コード
森林管理署コード
森林事務所コード
サブシステムコード
ジョブネットＩＤ
起動ユーザＩＤ
起動システム日時
連番
対象復命書局コード
<続きあり>
立木按分
立木按分SK
按分局コード
按分署コード
按分事務所コード
年度
機能別
材積
総材積
幹材積マスタ
幹材積SK
森林管理局コード
ブロック
代表樹種
胸高直径
樹高
単材積
最低樹高
最高樹高
収穫管理表
収穫管理表SK
収穫SK
調査命令日
復命書入力日
法令制限有無
法令制限チェック日
収穫区分
実行年度
連番
記入番号
<続きあり>

収穫　TO BE



■工程1との変化点
①横持ち→縦持ち
・調査復命（旧復命書）：更新方法、法指定、拡大用樹種、添付書類、表示方法を外出し
・収穫立木帳票出力：対象フラグを外出し
・樹高曲線：樹高明細を外出し

②正規化
・略称等、コード・デコード値の冗長保持を廃止（コード値から作成するため不要）
・キー項目の冗長保持を廃止
　例：復命書局コード、復命書署コード、復命書事務所コード、調査年度、復命書番号等
・テーブル間の冗長カラムの修正
　収穫（New）内で調査復命、収穫予定、収穫実行共通のカラムを保持
　記番については収穫予定と収穫実行で冗長保持していたため収穫予定へ集約

③テーブルの役割明確化（復命書のカラム削減）
・調査復命（旧復命書）に保持していた日付は各機能の保持すべきテーブルへ変更
　例：立木調査野帳へ立木野帳確定日を移動

④評定・契約情報の他サブ参照
　立木樹材種評定の削除：立木販売側テーブルを参照

⑤襲用対応
調査方法「襲用」追加のため、調査復命に襲用元復命書番号を追加

■確認事項
・採材調査野帳の廃止
・収穫予定総括の廃止
・全内残の廃止

#20【収獲】
収穫調査手法の多様化と標準化の見直し

Agenda

01 本課題について

02 調査方法

03 その他の区分

本課題について

本紙では課題一覧の内、＃20ついて整理・検討する。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブ システム	課題タイトル	課題内容	優先度
20	収穫	収穫調査手法の多様化と標準化の見直し	現在の収穫調査の方法、実態に併せてシステムの要件、特に野帳（伐採する調査木の情報を書き留めた資料）を整理する必要がある。 ▼収穫調査の方法 ・毎木、標準値　※代表的な方法（労力がかかる） ・指定調査機関による調査　※現在主流 ・襲用（隣の野帳を参考）、目測（見た目で材積・蓄積を把握）※省力化のため、近年取り入れられて来ている方法 ・レーザーなどITCを活用した材積の把握技術　※将来的な方法 など ▼収穫調査の実態 ・各局の内規により対応しており、各局で収穫調査時に把握する情報が異なる（例えば生被区分、材種区分、品質区分、態様区分など） ・統合はハードルが高いため、次期システムにおいても各局の取扱いの違いを把握し、その違いを抽象化して吸収するような検討が必要。 ・現行でもその違いを吸収しているため、大きく見直すべき項目ではないが、これまで蓄積された既存のデータと整合をとりつつ、整理可能な項目は整理が必要。	中

弊社理解

①調査方法、及び②その他収獲調査にかかる各区分の見直しが必要。既存データの確認をしつつ、整理する。

調査方法

現行システムでは、調査方法1～5が利用されており、6,7の追加を検討する。

なお、６：襲用に関しては次期システムでは導入予定となる。

コード	調査方法	調査のやり方	備考
1	毎木（精密）	特定の区画内にある一定サイズ以上のすべての樹木について、樹種、樹高、幹周（胸高直径）などの情報を測定する方法	要確認：指定調査機関による調査の場合の調査方法は1～5いずれかに包含される認識で良いか
2	標準地	対象林分の中から平均的な林相の箇所を選んで調査し、その結果を面積比で森林全体に拡張して材積などの森林の状況を推定する方法	指定調査機関による調査は毎木調査のみ
3	標本抽出調査	森林全体の正確な状況（立木の本数、直径、樹高、材積、樹種、森林の健全度など）を把握するために、その一部（標本または標準地）を調査し、その結果から森林全体（母集団）の傾向や資源量を統計的に推測する方法	
4	毎木（樹高曲線）	特定の区画内にある一定サイズ以上のすべての樹木について、樹種、幹周（胸高直径）などの情報を測定する方法	
5	目測	精密な測定機器を使わず、目視や簡易な道具（測桿など）を用いて、森林や個々の樹木の状態（樹高、直径、本数、曲がり具合など）を概略的に把握する調査方法	ICTによる調査は、標準地調査に含まれるはずで、必要性については年明け以降に再度検討する。調査方法は「襲用」のみ追加
6	襲用	近接する類似の森林の収穫（成長）調査データを活用して、調査にかかる時間や手間を簡素化・効率化する手法	要件再定義#26 にて追加
7	ICT	レーザーなどICTを活用した材積の把握技術　※将来的な方法	要確認：次年度のタイミングの追加はしない認識で良いか

その他の区分

現行システムで、収穫調査で取り扱う主な区分は以下5つ。

#	区分	意味	備考
1	生被区分（30080）	伐採対象の区別 例：生立木,生被木,被害木	
2	態様区分（30090）	森林に対してどのような作業を行うか施業の種類 例：生立木,正常木,生倒木.生折木	生被区分とは選択肢が異なる
3	樹種（50）	木材となる木の種類 例：スギ,ヒノキ	
4	材種（30020）	木材の用途・形状・寸法による区分 例：一般材,割柱採材,一般用材	
5	品質区分（30100）	原木の格付け 例：A,B,C	

■　確認事項

区分に関しては１，２のように選択肢の重複（例：生立木）はあるものの区分の用途・目的が異なり各々必要と考えられる。

各区分で過不足があれば運用時に随時追加・削除を検討する方向性でよいでしょうか。

→その他の区分については要件再定義では取り扱わず、必要であれば運用時に検討する

課題#21
樹高曲線等の蓄積データの見直し

課題#21について

樹高曲線データの取り扱いの見直しが必要である、という課題です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
21	収穫	樹高曲線等の蓄積データの見直し	樹高曲線などこれまで蓄積されてきたデータはあるものの、形骸化している可能性のあるテーブルデータにも焦点を当てる必要がある。	中

弊社理解

・樹高曲線によってその地域の立木の各樹種ごとの傾向を確認することができる。
・樹高曲線はその地域の成長見込みの把握に利用する。
・樹高曲線図自体は現状使用されているものの、マクロ等外部で作成している。
・樹高曲線図は復命書の必須の添付資料として利用されている。

決定事項

PJMO様との検討の結果、本課題はシステム外で算出した決定樹高が、胸高直径のみの野帳に紐づけできないことだと判明した。さらに、決定樹高や樹高曲線の方式、計算式は各局で異なっていることも明らかとなった。
そのため、対応方針としては「システム外の樹高曲線で求めた決定樹高をアップロードすることにより、その決定樹高を胸高直径のみの野帳に紐付け、評定まで行えるようにする」こととなった。

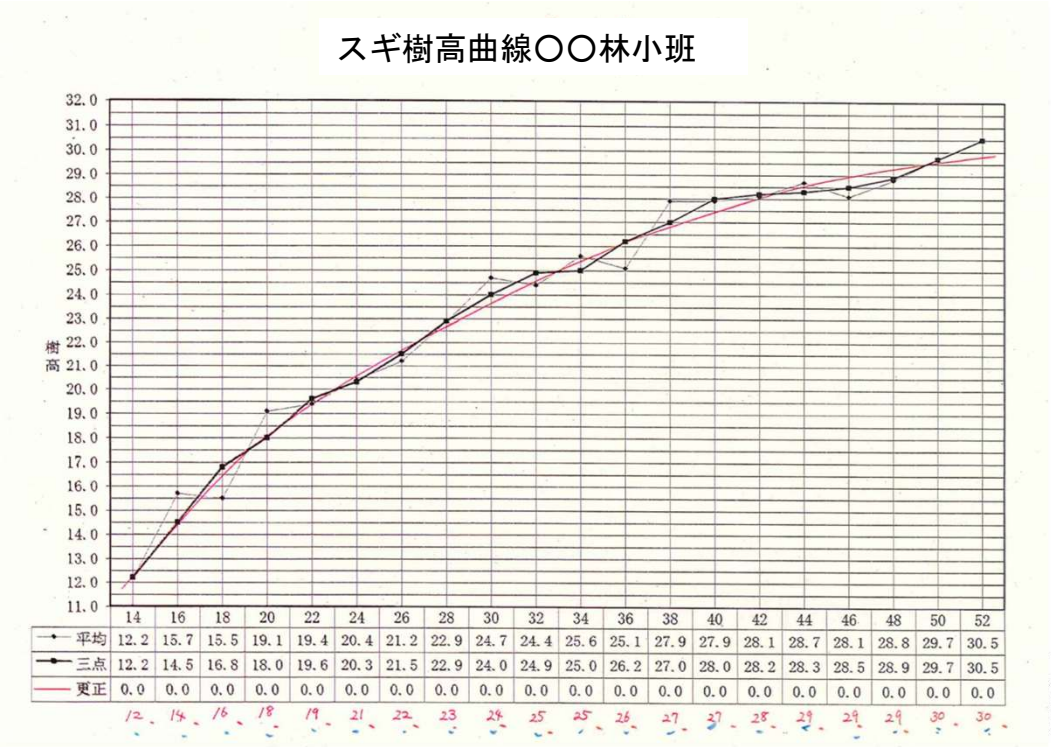
PJMO様への確認事項

課題一覧#27から読み取ることができなかった点について確認させていただきたいです。

#	確認事項	PJMO様回答
1	樹高曲線図作成までのフローについてご教示いただきたいです。 工程１では、立木調査野帳のデータを手入力で樹高標準木法グラフ（樹高入力）.xlsmに転記し、樹高曲線を作成している認識です。	九州だと、図までの作成を行わない。 樹高標準木法グラフ（樹高入力）.xlsmを使用しているのは四国のみ、ほかの局については作成方法は異なる。 グラフの作成方法は何種類かあるがそこまでかわらない。
2	樹高曲線図の赤字で記入されている数字の意味をご教示いただけないでしょうか。	決定樹高を表している。

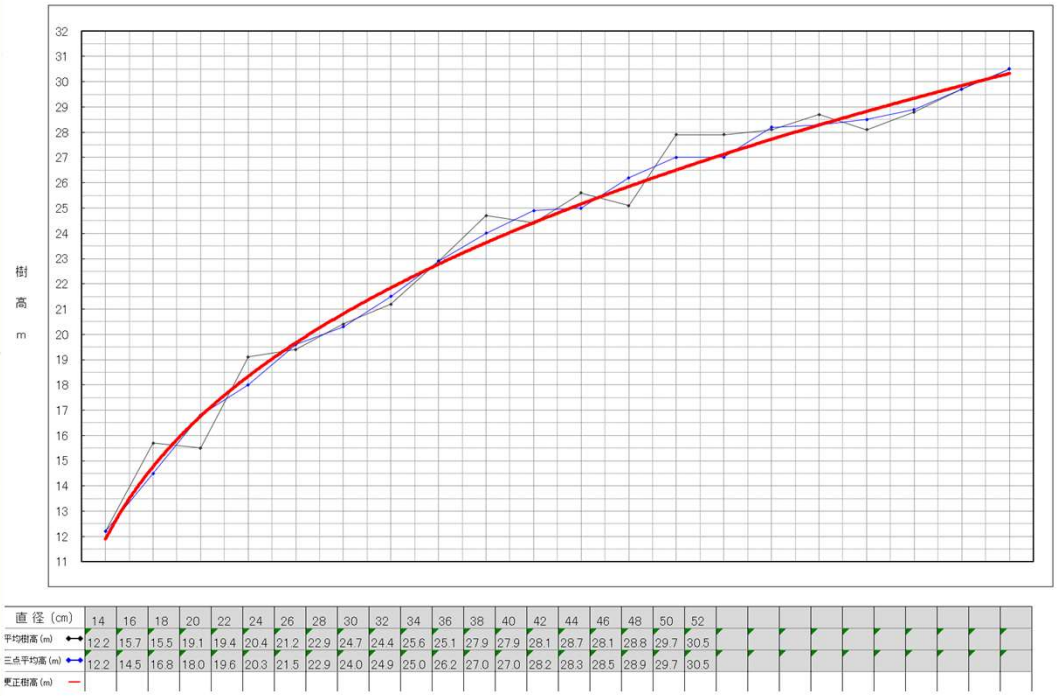
樹高曲線図の作成方法

樹高標準木法グラフの赤の曲線は平均樹高と三点平均の対数近似を取っており、加重平均で計算はされていません。樹高曲線.pdfにおいても具体的な算出方法は不明ですがグラフ下部の平均樹高、三点平均から算出していると思料します。



	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52
平均	12.2	15.7	15.5	19.1	19.4	20.4	21.2	22.9	24.7	24.4	25.6	25.1	27.9	27.9	28.1	28.7	28.1	28.8	29.7	30.5
三点	12.2	14.5	16.8	18.0	19.6	20.3	21.5	22.9	24.0	24.9	25.0	26.2	27.0	28.0	28.2	28.3	28.5	28.9	29.7	30.5
更正	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	14	16	18	19	21	22	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	29	30	30

※樹高曲線.pdfから抜粋



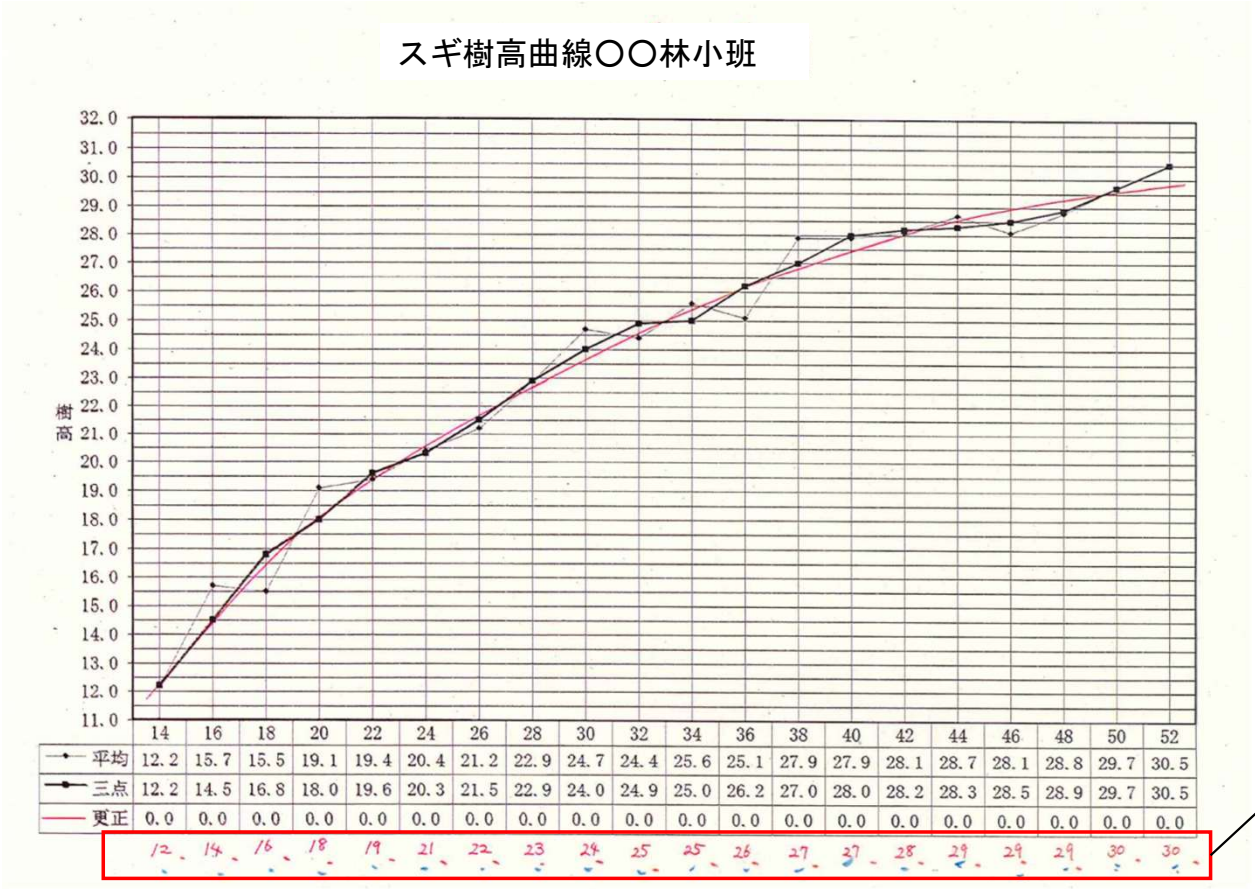
直径（cm）	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52
平均樹高（m）	12.2	15.7	15.5	19.1	19.4	20.4	21.2	22.9	24.7	24.4	25.6	25.1	27.9	27.9	28.1	28.7	28.1	28.8	29.7	30.5
三点平均高（m）	12.2	14.5	16.8	18.0	19.6	20.3	21.5	22.9	24.0	24.9	25.0	26.2	27.0	27.0	28.2	28.3	28.5	28.9	29.7	30.5
更正樹高（m）																				

※樹高標準木法グラフ（樹高入力）.xlsmで作成

Appendix

樹高曲線.pdf

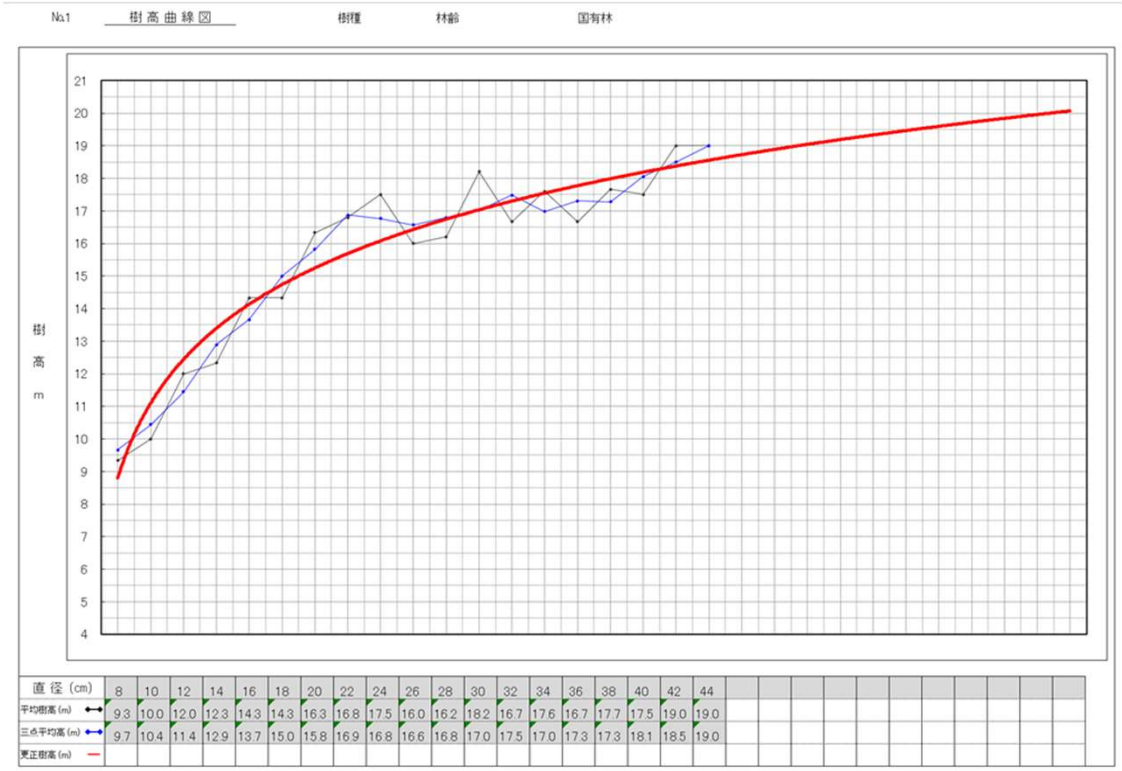
樹高曲線を以下に示します。



	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52
平均	12.2	15.7	15.5	19.1	19.4	20.4	21.2	22.9	24.7	24.4	25.6	25.1	27.9	27.9	28.1	28.7	28.1	28.8	29.7	30.5
三点	12.2	14.5	16.8	18.0	19.6	20.3	21.5	22.9	24.0	24.9	25.0	26.2	27.0	28.0	28.2	28.3	28.5	28.9	29.7	30.5
更正	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	14	16	18	19	21	22	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	29	30	30

樹高標準木法グラフのインプットとグラフ

樹高曲線の作成時にインプット情報として入力する値と入力結果に基づいて作成される樹高曲線図を示します。



※樹高標準木法グラフ（樹高入力）.xlsmで作成

#22【収獲】
収穫業務に関わるデータフローの整理

Agenda

01 本課題について

02 AS ISデータフロー

03 TO BEデータフロー

04 AS IS CRUD図

05 TO BE CRUD図

本課題について

本紙では課題一覧の内、＃22ついて整理・検討する。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

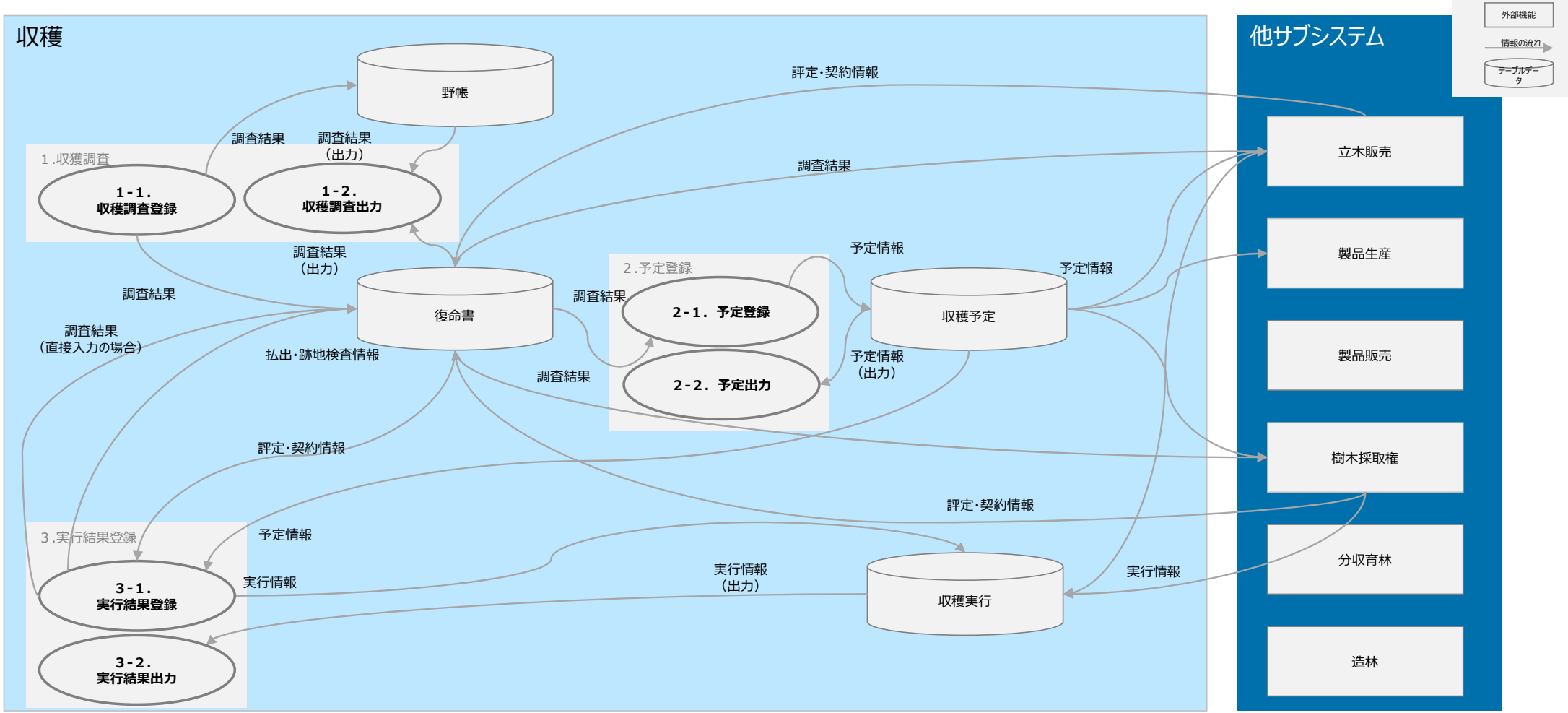
#	サブ システム	課題タイトル	課題内容	優先度
22	収穫	収穫業務に関わるデータフローの整理	収穫復命書データのライフサイクルをデータフローとして整理する必要がある。 ▼大まかなライフサイクル（業務） 収穫調査→復命書作成→収穫予定→伐採（収穫）→実行結果登録→伐採の跡地検査等 ▼大まかなライフサイクル（サブシステム） 収穫SS→立販、製品生産、製品販売、樹木採取権、分収育林SS→収穫SS→造林SS	中

弊社理解

業務上は、収穫業務は森林情報管理、立木販売、製品生産、製品販売、樹木採取権、分収育林、造林と関連性がある認識。
システム上（データの関連）は、森林情報管理、立木販売、製品生産、樹木採取権と関連性を持っている。

AS IS　データフロー

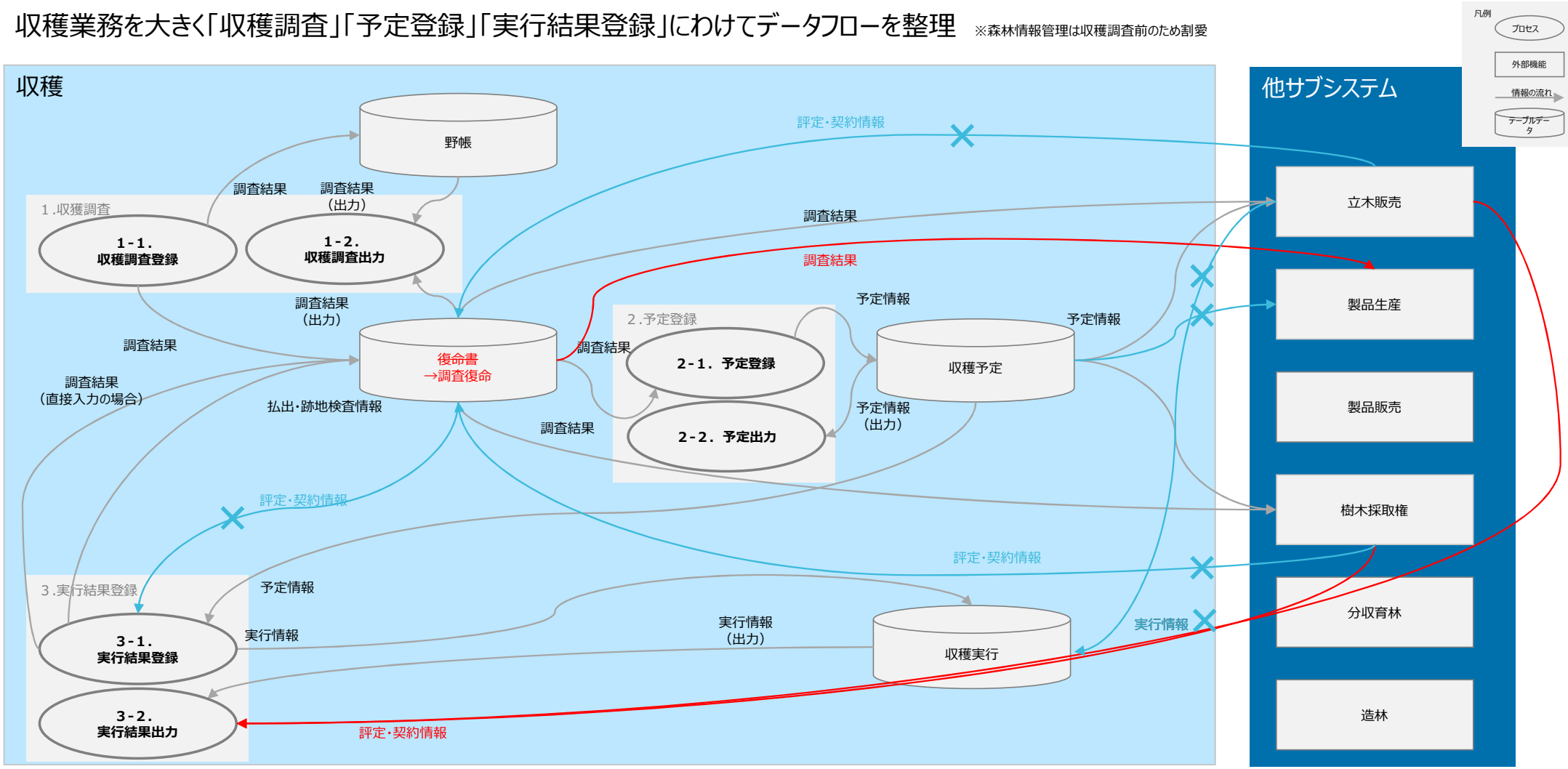
収穫業務を大きく「収穫調査」「予定登録」「実行結果登録」にわけてデータフローを整理　※森林情報管理は収穫調査前のため割愛



TO BE　データフロー

■AS IS との変化点
- 評定・契約情報は他サブ（立木販売、樹木採取権）から収穫側テーブルへの登録・更新処理はせず、他サブ側の評定・契約情報を帳票出力時に参照する仕組みとする。
- 製品生産の参照先変更（収獲予定→調査復命）

収穫業務を大きく「収穫調査」「予定登録」「実行結果登録」にわけてデータフローを整理　※森林情報管理は収穫調査前のため割愛



AS IS　CRUD図

業務フロー（プロセス）		凡例 C（Create：作成） R（Read：参照） U（Update：更新） D（Delete：削除）	収穫（主要テーブルデータ）			
			復命書	野帳	収獲予定	収穫実行
1.収穫調査		復命書作成	CRUD		U	U
		調査データ取込	RU	CRD		
2.予定登録		予定簿入力	R		CRD	
		予定総括表作成	R		R	
他サブ	立木販売	評定・契約	RU		R	CRD
	製品生産	生産予定簿作成			R	
	樹木採取権	評定・契約	RU		R	CRUD
3.実行結果登録		払出登録	RU			CUD
		跡地検査完了登録	U			RU
		実行簿作成	R			R
		実行簿直接入力	CRUD		RU	CRUD
		実行総括表作成	R			R

参考　他サブシステムとの関連性

森林情報管理	収穫で復命書作成時に年度別調査簿を参照
立木販売	復命書へ評定・契約ステータス更新
製品生産	収穫予定を参照し生産予定簿を作成
製品販売	収穫とシステム的な関連なし
樹木採取権	復命書へ評定・契約ステータス更新
分収育林	収穫とシステム的な関連なし 主に森林情報管理と関連（業務的には収穫調査後）
造林	収穫とシステム的な関連なし 主に森林情報管理と関連（業務的には収穫実行後）

TO BE　CRUD図

業務フロー（プロセス）		凡例 C（Create：作成） R（Read：参照） U（Update：更新） D（Delete：削除）	収穫（主要テーブルデータ）				他サブシステム
			復命書 →調査復命	野帳	収獲予定	収穫実行	立木販売・樹木採取権 評定契約情報
1.収穫調査		復命書作成	CRUD		U	U	
		調査データ取込	RU	CRD			
2.予定登録		予定簿入力	R		CRD		
		予定総括表作成	R		R		
他サブ	立木販売	評定・契約	~~RU~~		R	~~CRD~~	
	製品生産	生産予定簿作成	R		~~R~~		
	樹木採取権	評定・契約	~~RU~~		R	~~CRUD~~	
3.実行結果登録		払出登録	RU			CUD	
		跡地検査完了登録	U			RU	
		実行簿作成	R			R	R
		実行簿直接入力	CRUD		RU	CRUD	
		実行総括表作成	R			R	R

参考　他サブシステムとの関連性

森林情報管理	収穫で復命書作成時に年度別調査簿を参照
立木販売	復命書へ評定・契約ステータス更新
製品生産	調査復命を参照し生産予定簿を作成
製品販売	収穫とシステム的な関連なし
樹木採取権	復命書へ評定・契約ステータス更新
分収育林	収穫とシステム的な関連なし 主に森林情報管理と関連（業務的には収穫調査後）
造林	収穫とシステム的な関連なし 主に森林情報管理と関連（業務的には収穫実行後）

■変化点
- 他サブから調査復命（旧復命書）及び収穫実行の更新は廃止。
- 実行簿の出力時には他サブシステムを参照して評定契約情報を参照。

Appendix

平成 25 年度

施業方法・伐採方法別内訳表

[redacted]

4 月～ 10 月分

育成単層林 （官収分）

（単位：m3，円，ha）

		立木販売			製品資材		その他		計	
		材積	金額	面積	材積	面積	材積	面積	材積	面積
間伐	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
皆伐	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
漸伐	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
択伐	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
複層伐	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
主伐計	山地災害防止	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	自然維持	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	森林空間利用	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	快適環境形成	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	水源涵養	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999
	計	9,999,999	99,999,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999	9,999,999

課題#24
カタカナ小班分の人天別集計への反映方法

課題#24について

カタカナ小班分の人天別集計を正しく反映させたい、という課題です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
24	収穫	カタカナ小班分の人天別集計への反映方法	▼問題 復命書の林小班情報を森林情報管理の森林調査簿情報から参照登録しているが、カタカナ小班について森林調査では林種の細分の登録が必須となっていない。 実行総括表の人天別の集計は、復命書の林種の細分に基づき修正することとなっているが、森林調査簿に記載がないため、カタカナ小班分が人天別の集計に反映されない。 ▼現状 現在は運用事業者のヘルプデスク対応にて、実行総括表作成前に各局にカタカナ小班の一覧を照会し、各署等で入力、局から運用事業者に回答し、運用事業者により一括登録している。一括登録後は復命書にも林種の細分が計上されることとなり、データ上は森林調査簿と齟齬のある状態になる。現在は印刷物が証拠書類となっているため、書庫書類上は林種の細分は未記載。 ▼経緯 過去には復命書入力時に必須入力としていたが、森林調査簿の記載事項ではないため参照できず、調査簿とも矛盾するため必須入力とはなっていない。 ▼課題内容 今後も運用事業者による年次対応とするか、復命書入力時に手入力必須項目とするか林野庁の担当者の見解も踏まえ確定する必要がある。 なお、特に署等からの指定がなければ「単層林」としている。	低

対応方針

前述した課題の対応案を以下に示します。

#	対応案	メリット	デメリット
案①	**運用事業者による年次対応(現状維持)**	△ **・現在の業務に変更なし**	△ **・運用事業者との調整が必要** **・保守費用が追加で発生**
案②	**復命書の「林種の細分」項目をカタカナ小班においても必須項目に変更**	○ **・保守費用の減少**	○ **・復命書作成者の負担微増**

案③実行簿登録時に「林種の細分」を入力する

払い出し情報一括登録の際に、完了日とともに林種の細分の入力も必須とする。

課題#25,28,32
バリデーションチェックの追加

課題#25,28,32について

バリデーションチェックの追加を行いたい、という課題です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

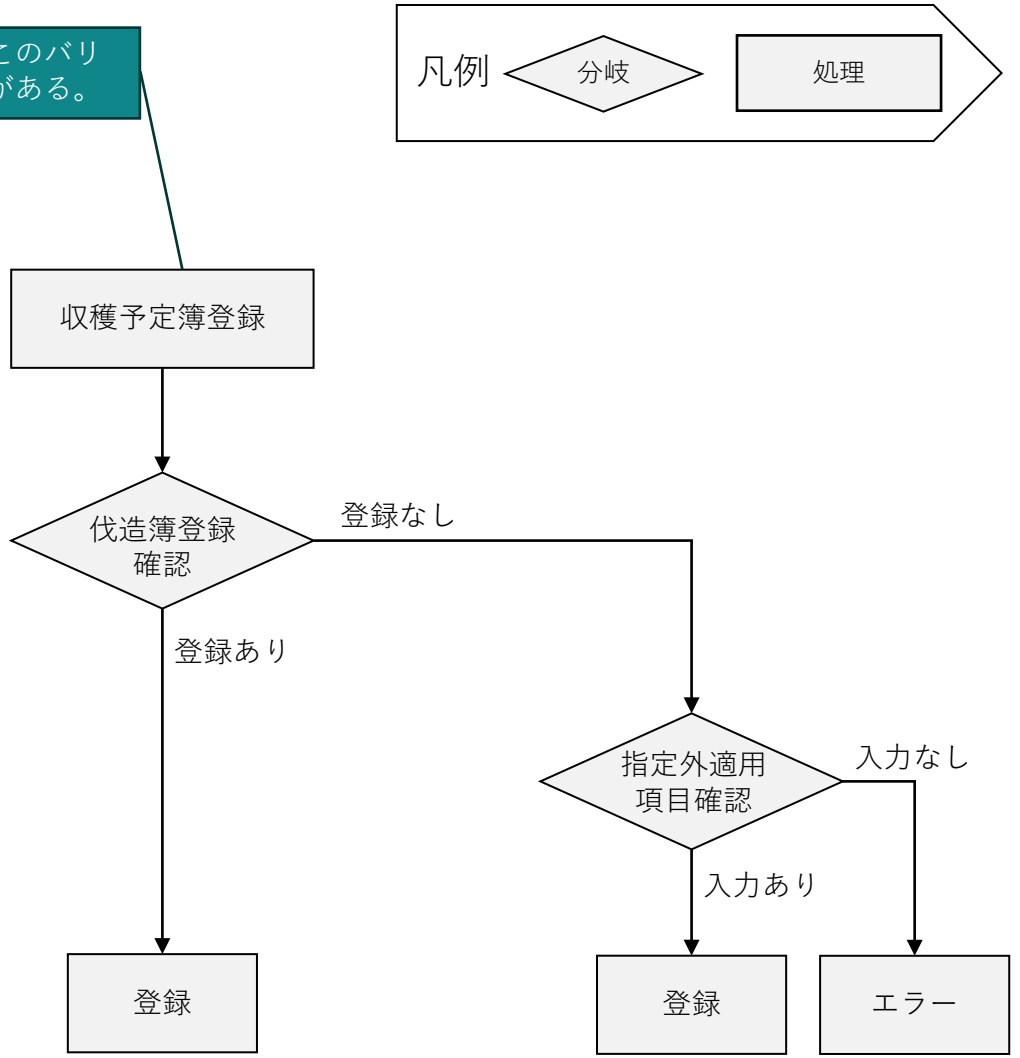
#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
25	収穫	バリデーションチェックの追加	収穫SSのバリデーションチェックを見直したい。 ・計画されていないまま伐採することを回避するため、予定簿が伐造簿に記載されているかチェックしたい。 ・計画期跨ぎによるバリデーションチェックの確認が必要。	低
28	収穫	バリデーションチェックの追加 （収穫予定簿一入力）	収穫予定簿一入力 ▼理由 予定簿を収穫復命書から自動的に搭載する場合に、伐造簿に搭載されていない収穫復命書があれば、チェックし、計画に沿った収穫予定簿を作成したい。 ▼説明 収穫予定簿は、基本的に①伐造簿を元に収獲予定を作成、②実施された収穫調査を行う。伐造簿に搭載されていない未実行の収穫調査がある場合、どうするか、そのような例があるかは確認。	低
32	収穫	バリデーションチェックの追加 （造林調整簿の反映漏れ防止）	収穫復命書入力漏れなどによる造林調整簿の反映漏れについて ▼理由 跡地検査実施後、更新対象となっているデータを漏れなく把握し、造林調整簿に更新（森林の造成の更新）データを引き継いで、更新対象をもれなく把握したい。 ▼説明 「刷新からの仕様変更No.7 造林調整簿作成に係るデータの流れを明確（履歴データ取込処理において取り込みされるデータの詳細等）にし、是正できる箇所は是正したい」から、収穫復命書入力時に漏れなどが発生すると、造林調整簿の差分として適切に検出されない。 収穫復命書入力漏れを検知できるように収穫サブシステムで検討する必要があるため、次年度への申し送りとする。	低

対応方針 #25,28

復命書作成時には計画期外である可能性があるため、このバリデーションチェックは収穫予定簿の登録時に行う必要がある。

以下の対応方針で#25,28の課題を打ち取れると思料します。

#	25,28
課題タイトル	バリデーションチェックの追加（収穫予定簿ー入力）
課題内容	・計画されていないまま伐採することを回避するため、予定簿が伐造簿に記載されているかチェックしたい。 ・計画期跨ぎによるバリデーションチェックの確認が必要。
対応方針	・予定簿登録時に林小班情報が伐造簿に登録されているかバリデーションチェックを行う。伐造簿に登録がない場合には、指定外適用項目に何らかの値が入力されているかバリデーションチェックを行う。



対応方針 #32

凡例　該当箇所

以下の対応方針で#32の課題を打ち取れると思料します。

#	32
課題タイトル	バリデーションチェックの追加（造林調整簿の反映漏れ防止）
課題内容	収穫復命書入力漏れなどによる造林調整簿の反映漏れの是正を行いたい。
対応方針	復命書の新規作成時に実行総括面積で「計上する」を選択した場合は、更新面積の合計と収穫区域面積が等しいかバリデーションチェックを行う。

※工程1「復命書情報入力」画面より抜粋

バリデーション：
収穫区域 = 更新面積合計 ⇔ $a = b_1 + b_2 + b_3 + b_4$

対応方針 #32

凡例　該当箇所

以下の対応方針で#32の課題を打ち取れると思料します。

#	32
課題タイトル	バリデーションチェ
課題内容	収穫復命書入力漏れ
対応方針	復命書の新規作成時に実行総括面積で「計上する」を選択した場合は、更新面積の合計と収穫区域面積が等しいかバリデーションチェックを行う。

【確認事項①】
複層伐の復命書作成時に収穫区域は手入力として実装する想定です。
その際、収穫区域を未入力とするケースはありますでしょうか
→収穫区域を必須項目とするためそのようなケースは存在しない

【確認事項②】
続行総括面積を「計上する」とする割合はどの程度でしょうか。
→割合としては高くない。デフォルトで値を入れる必要はない

【検討課題】
「実行総括面積」項目は、造林調整簿の更新が必要か必要でないかを入力する項目である。
しかし、現状では更新／非更新を入力する項目であるにもかかわらず、「実行総括面積」「計上する／計上しない」という表現となっており、わかり易かどうかを画面設計時に検討する必要がある。

［面積］

調査区域＊	2.24 ha
収穫除地	ha
収穫区域	2.24 ha
標準地	0.02 ha

a

実行総括面積＊　計上する

	更新方法	更新面積
1	60 更新不要	0.0
2		
3		
4		

b_1
b_2
b_3
b_4

※工程1「復命書情報入力」画面より抜粋

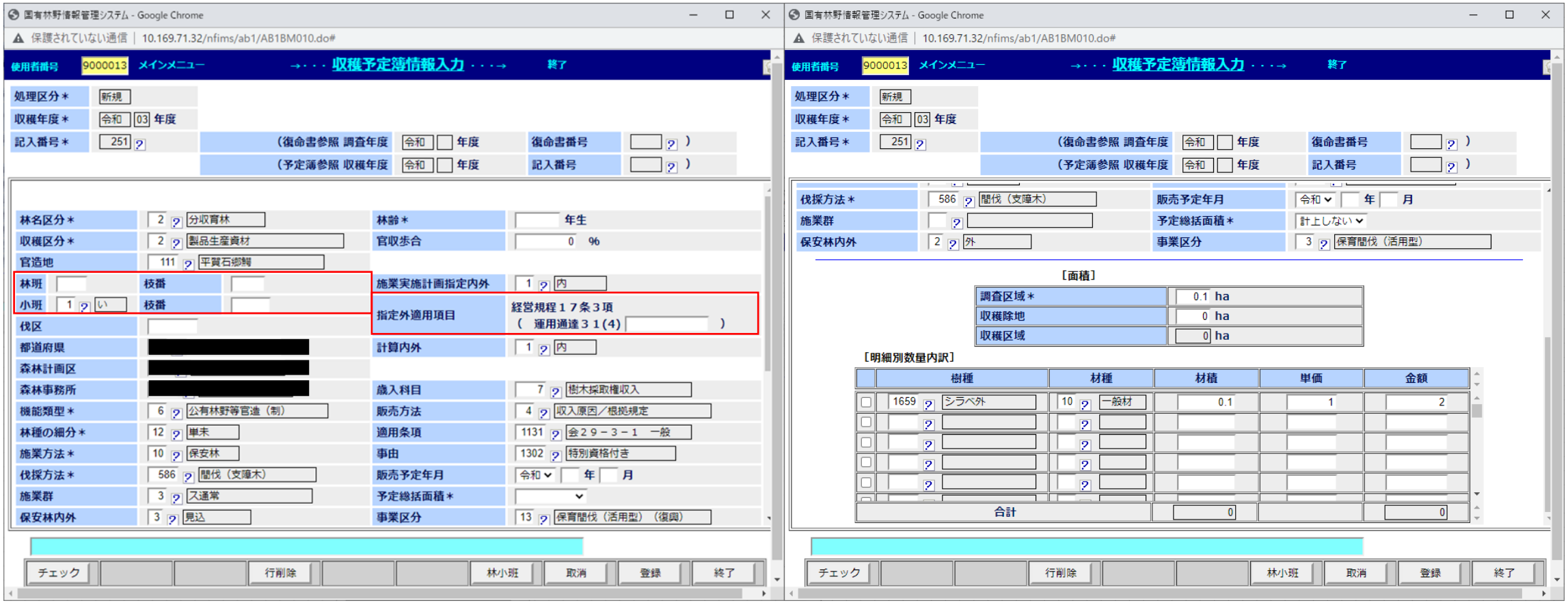
バリデーション：
収穫区域 ＝ 更新面積合計 ⇔ $a = b_1 + b_2 + b_3 + b_4$

Appendix

バリデーションチェックを行う収穫予定簿のカラム

凡例　反映該当箇所

以下に工程1における収穫予定簿情報入力画面を示します。

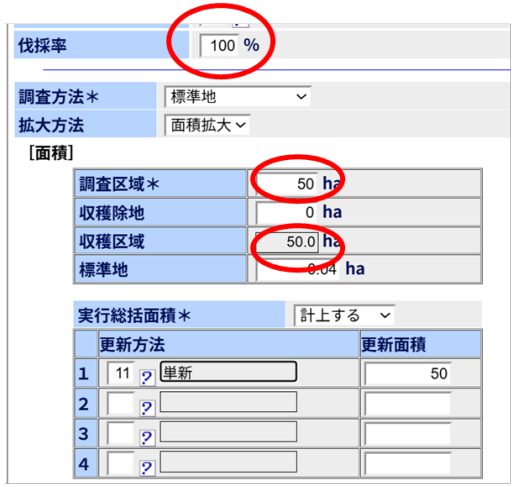


※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

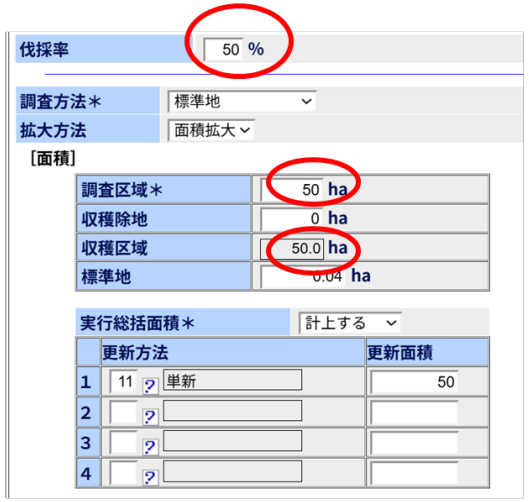
複層伐の復命書作成時の入力項目

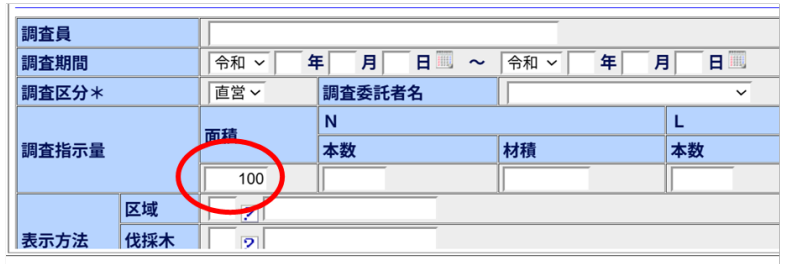
以下にPJMO様から共有いただいた複層伐の仕様を示します。

現在の一般的な登録方法
（複層伐の伐採箇所のみ）

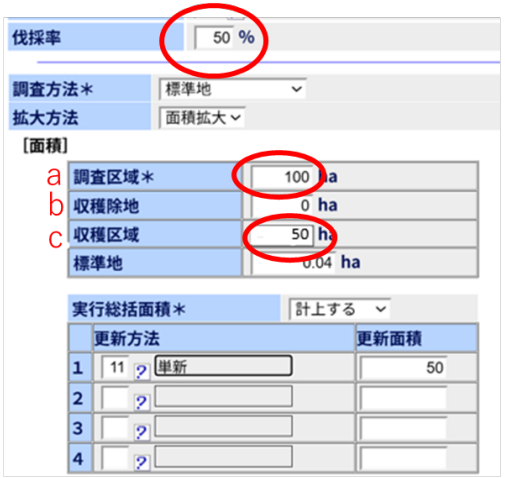


本庁担当者見解
（画面上で把握可能な苦肉の策）





複層伐が正しく集計されるために



※　計算式の分岐
① 複層伐以外：a-b=c
　a, b：手入力、c：自動
② 複層伐：a＝小班面積：自動
　b, c 手入力
　複層伐対象の面積ここでは100ha

※　拡大対象は「収穫区域」

※　面複対応として、復命書に「面複番号」追加

※「復命書における複層伐の実装.pptx」から抜粋

課題#26
襲用時の復命書作成簡略化

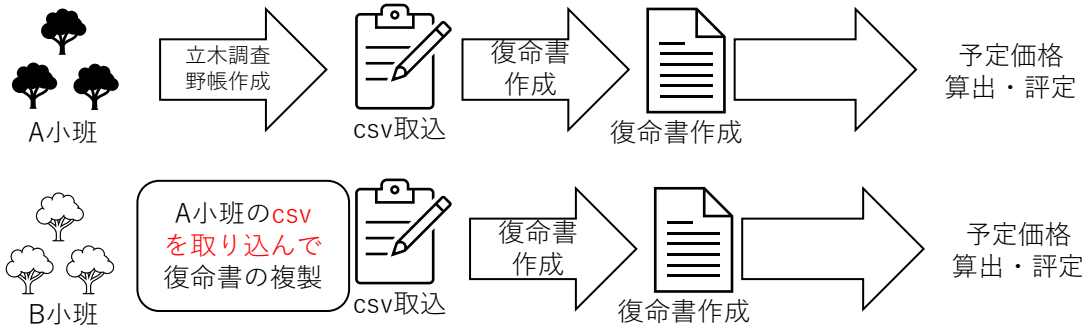
課題#26について

襲用を行う際に、任意の復命書から新たな復命書を作成したい、という課題です。また、襲用元に紐づいている評定のデータは襲用時には複製しない認識です。

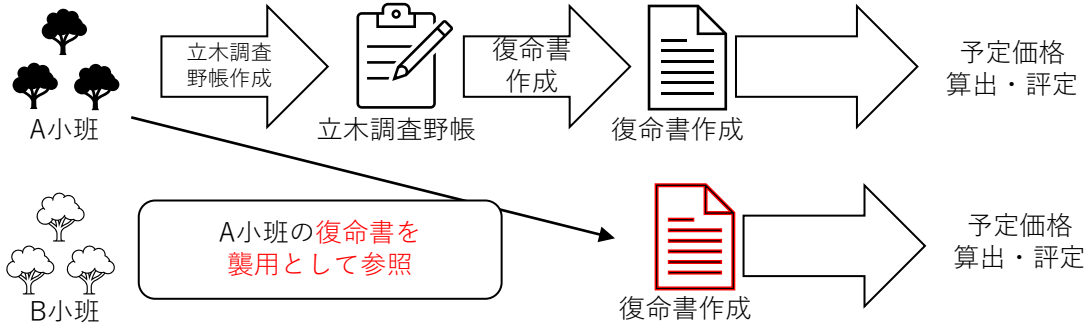
※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
26	収穫	襲用時の復命書作成簡略化	復命書入力時に立木調査結果をcsvファイルにより取り込んでいるが、類似林分（襲用）の調査結果を活用する際は、活用先の小班を選択することで、ファイル取り込み作業や一部の入力作業等が省略できるようにしたい。（復命書情報入力の調査方法欄の選択肢として、「類似林分（襲用）」（調査方法名）を追加することも必要） 同じ小班内で複数の伐区や樹種毎に復命書を作成する場合は、それぞれ同じ小班情報を入力する必要があり、異なる入力値だけを入力するようにしたい。 ▼理由 同じ小班の中に複数の伐区が存在している場合、伐区ごとに調査をする必要があるためそれぞれに同じ情報の入力を行わなければいけない。 ▼説明 森林の状況が類似した複数の小班については、1つの小班を調査し、その他は調査した小班の野帳データ等を活用することができる。（「襲用」という。）	高

AsIs： 襲用の際、類似小班A,Bであっても・・・



ToBe



PJMO様への確認事項

課題一覧#26から読み取ることができなかった点について確認させていただきたいです。

#	確認事項	PJMO様回答
1	襲用を行うのは同じ小班内のみでしょうか。	同じ小班のみではない。(隣接小班、隣接林分)
2	（襲用が同じ小班内のみだった場合） 計画期をまたぎ林小班情報に変更があった場合には、旧情報が登録されている復命書から林小班番号を取得しても問題ないでしょうか。	回答不要(確認事項1が同じ小班のみではなかったため)
3	復命書Aを襲用して復命書B,Cを作成した場合、復命書Aの復命書情報画面で復命書B,Cを襲用しているとわかる必要がありますでしょうか。 また、複数の復命書で襲用される場合には、襲用元の復命書に襲用先のすべての復命書番号を表示する必要がありますでしょうか。	不要。
4	襲用された復命書に、襲用元となった復命書番号を復命書情報画面に表示する必要はありますでしょうか。	必要。

課題#26における要件

課題#26「襲用時の復命書作成簡略化」における要求、背景、前提を以下に示します。

要求	復命書入力時に立木調査結果をcsvファイルにより取り込んでいるが、類似林分（襲用）の調査結果を活用する際は、活用先の小班を選択することで、ファイル取り込み作業や一部の入力作業等が省略できるようにしたい。
背景	現状は、襲用をシステム化できていないため立木調査野帳を再度を取り込み復命書の複製を行っている。
前提	襲用時には評定結果の複製は不要である。
要件	※要件については次ページに記載

課題#26における要件

決定事項

課題#26「襲用時の復命書作成簡略化」における要件を以下に示します。

要件	① 襲用元となる復命書を選択することで、新たに「襲用」として復命書を作成できること。 ・ 襲用を行う画面は復命書一覧画面から行うこと。 ・ 復命書一覧画面上で任意の復命書に対してセレクトボックスで選択し、「襲用」ボタンを押下することで襲用として復命書が作成できること。 ・ 襲用として1度に複数の復命書を作成できること。 ・ 襲用として復命書を作成する場合には、モーダル表示でその復命書の林小班情報を入力することで新規作成が完了すること。 ・ 襲用先の復命書の調査方法は「襲用」とすること。 ② 襲用として復命書が新規作成された際に、襲用元の復命書の野帳や添付書類が襲用先の復命書に複製されること。 複製される野帳、添付資料は以下の4個 立木調査野帳、樹材種別一覧表、材積計算書、樹高曲線 ③ 復命書の調査方法に「襲用」を追加すること。 ④ 襲用として復命書を作成した場合、襲用先の復命書に襲用元の復命書番号を表示すること。 ⑤ 襲用先の復命書は、該当の年度別調査簿からデータを取得すること。 参照するカラムは以下の１1個 林名区分、官造地、都道府県、森林計画区、森林事務所、機能類型、林種の細分、施業方法、施業群(生産群)、法指定、林齢 ⑥ 襲用元の復命書の拡大方法が面積拡大であった場合、襲用元の面積を用いて襲用先の材積を自動で算出すること。 計算式：襲用先の拡大後材積 = 襲用元の標準地材積 ×（襲用先の調査区域/襲用元の標準地面積)、また、毎木調査の結果を襲用する可能性があるため、襲用先の拡大・縮小材積＝襲用元の毎木調査材積 ×（襲用先の小班面積／襲用元の調査面積）

Appendix

課題#26における要件

課題#26「襲用時の復命書作成簡略化」における要件を以下に示します。

要件

~~① 襲用元の標準地面積は襲用先の小班面積の5%以上であること。~~

② 襲用元となる復命書を選択することで、新たに「襲用」として復命書を作成できること。

- 襲用を行う画面は復命書一覧画面から行うこと。
- 復命書一覧画面上で任意の復命書に対してセレクト
  できること。
- 襲用として1度に複数の復命書を作成できること。
- 襲用として復命書を作成する場合には、モーダル表
- 襲用先の復命書の調査方法は「襲用」とすること。

③ 襲用として復命書が新規作成された際に、襲用元の復命書の野帳や添付書類が襲用先の復命書に複製されること。

複製される野帳、添付資料は以下の4個

立木調査野帳、樹材種別一覧表、材積計算書、樹高

。

の復命書に

データを

区、森林事

⑦襲用元の復命書の拡大方法が面積拡大であった場合、襲用元の面積を用いて襲用先の材積を自動で算出すること。

計算式：襲用先の拡大後材積 = 襲用元の標準地材積 ×（襲用先の調査区域/襲用元の標準地面積）、また、毎木調査の結果を襲用する可能性があるため、襲用先の拡大・縮小材積＝襲用元の毎木調査材積 ×（襲用先の小班面積／襲用元の調査面積）

【確認事項①】
襲用の条件は、襲用先の調査区域ではなく小班面積で認識相違ありませんでしょうか。
→調査面積である。ただし、製品生産は２％など%は変化する。局の内規で設定しているため一律のバリデーションは難しい。
→立木販売のバリデーションは必須、製品生産はバリデーション不要かを確認いただく。
→供給班様に確認いただいた結果、バリデーションは不要となった。

【確認事項②】
複製される野帳(立木調査野帳、樹高曲線情報)と添付資料(以下の9つ)で認識相違ありませんでしょうか。
→野帳と樹材種と材積計算書のみ複製(30,33,35)。樹高曲線はあるならコピーする。

71	搬出関係（系統）図	20	位置図	35	材積計算書
1	測量野帳	30	立木調査野帳	40	評定因子調書
10	実測図	33	樹材種別一覧表	71	搬出関係（系統）図

【確認事項③】
材積の計算は以下で認識相違ありませんでしょうか。

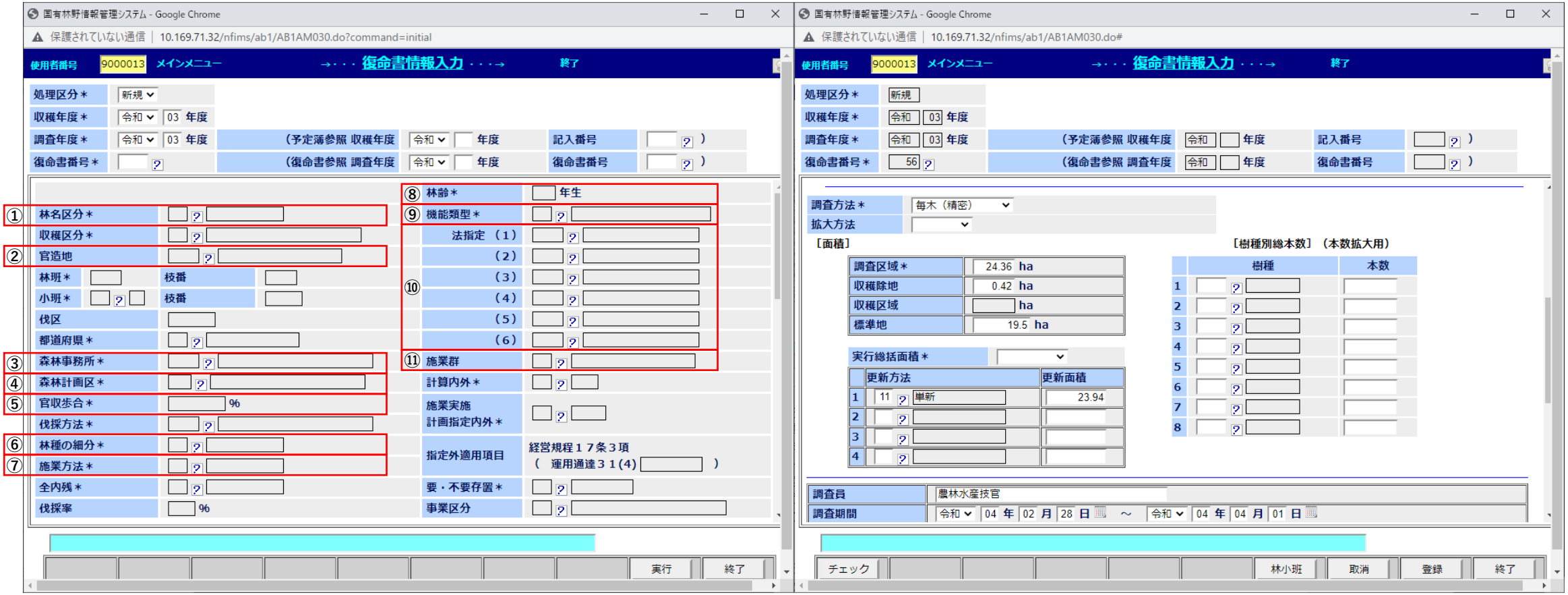
襲用先の拡大後材積 = 襲用元の標準地材積 ×（襲用先の調査区域/襲用元の標準地面積）
→画面上は確認できない。拡大後材積、拡大方法ともに帳票上に表示されたほうが良いのではないか、継続検討を続ける。

【確認事項④】
本数拡大の場合は計算処理は必要ないでしょうか。
→本数拡大はない。襲用元が本数拡大であった場合には襲用できない
→A小班を本数拡大したものをB小班に襲用したい場合はB小班でも同じように調査する必要が出てしまうため本数拡大はしない。
→ただし、理論上本数拡大を襲用することを排除していないため、バリデーションは不要とする。
【本数拡大で襲用が行われていない理由】
襲用は、調査を簡易的に行うために実施する調査手法である。例えば、A小班で500本選木（切る木にNo.テープ付ける作業）し、標本として10%の50本を野帳に径級・樹高を控えたとする。この野帳をB小班に襲用する場合、A小班が本数拡大のため襲用するにはB小班の選木も必要となり、調査を簡易的に行うことができない。

参照想定カラムとマッピング（復命書）

凡例　反映該当箇所

復命書作成時に参照される年度別調査簿の項目は「**①林名区分、②官造地、③都道府県、④森林事務所、 ⑤森林計画区、⑥林種の細分、⑦施業方法、⑧林齢、⑨機能類型、⑩法指定、⑪施業群(生産群)**」の想定です。



※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

復命書情報入力画面

復命書情報入力画面を示します。

課題#27
収穫予定簿の参照先

Agenda

01 課題#27について

02 PJMO様への確認事項

03 対応案

① 復命書作成年度によるモーダル表示

決定 ② 年度別調査簿のデータを常に参照

③ 復命書/年度別調査簿から参照先を選択

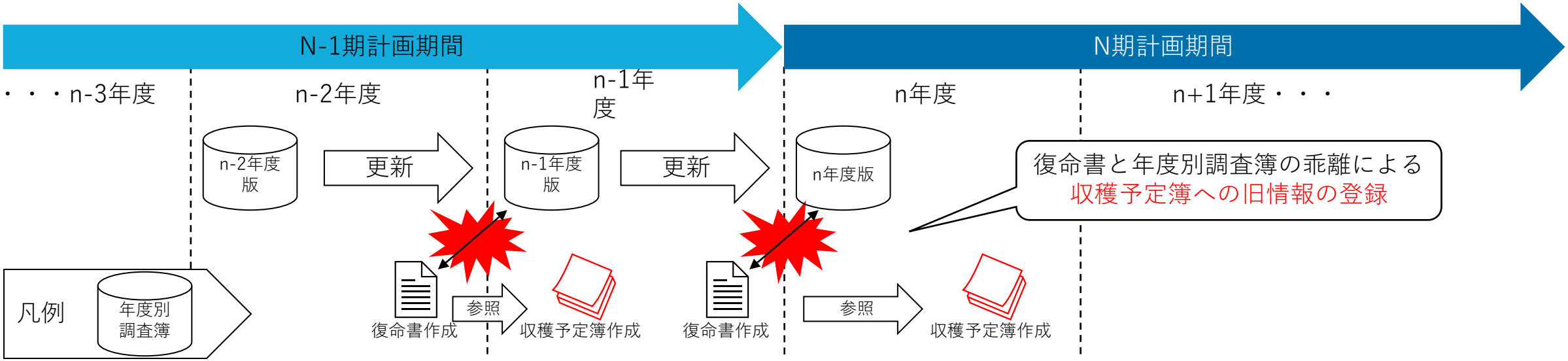
04 メリット/デメリット

課題#27について

特定の条件下では、収穫予定簿に古い情報が登録されてしまうため、収穫予定簿作成時に年度別調査簿を参照したい、という課題です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋、取り消し線は#16で対応

#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
27	収穫	収穫予定簿の参照先	▼理由 ~~復命書の項目のうち不要と思われる項目を整理したい。~~また、この整理と併せて**収穫調査後に、年度別調査簿の変更された場合、収穫予定簿で参照するデータを復命書からではなく、年度別調査簿を参照するようにしたい。** ▼説明 ~~不要項目は、例えば都道府県が必要か、必要最低限の復命事項に絞って復命書のレイアウトの見直しを行う。また、レイアウトはできるだけ簡素化すると共に、決裁欄の自由度を上げ、搬出関係や摘要の自由記入欄についても統合などの検討を行う。~~	高



PJMO様への確認事項

課題一覧#27から読み取ることができなかった3点について確認させていただきたいです。

#	確認事項	PJMO様回答
1	以前の分科会で本課題についてヒアリングした際に、計画期をまたいだ場合に復命書と年度別調査簿に乖離が生じると説明いただいた認識です。 しかし、年度別調査簿は毎年更新するため計画期に関わらず、前年度の復命書と今年度の年度別調査簿で乖離が発生し得るのではないでしょうか。	5年に１度まとめて調査簿を登録する局であっても年度別調査簿は毎年更新する。 復命書に登録する内容で乖離が派生する場合は変更樹立が発生した場合。
2	変更樹立が発生した場合、年度の途中でも年度別調査簿が更新されますでしょうか。	変更樹立が行われた場合であっても、年度別調査簿は年度末に更新する。
3	年度別調査簿を更新した結果、天然林などの施業しない小班となり収穫予定簿の作成が不要となる可能性はありますでしょうか。	施業ではないが木を切ることはある。 予定簿の作成が必要かは確認する。

対応案① 復命書作成年度によるモーダル表示

凡例　該当箇所

参照した復命書が年度をまたいでいた場合、復命書検索時にモーダル表示で確認を行います。

※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

対応案② 年度別調査簿のデータを常に参照

案②で決定

参照する復命書を選択し予定簿の作成を行う際に対象となる年度別調査簿を参照し自動で取得します。年度別調査簿から参照する項目は「**①林名区分、②官造地、③都道府県、④森林計画区、 ⑤森林事務所、⑥機能類型、⑦林種の細分、⑧施業方法、⑨施業群(生産群) 、⑩保安林内外、⑪林齢**」を想定しています。

※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

対応案③ 復命書/年度別調査簿から参照先を選択

凡例 該当箇所

収穫予定簿を作成する際は、対象の復命書を検索したうえで、毎回モーダルで復命書と年度別調査簿のどちらを参照するかを指定し、情報を取得します。

※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

メリット/デメリット

案①、②、③におけるメリットとデメリットをそれぞれ示します。

案②で決定

収穫予定簿の作成を行う際には、基本的な場合において復命書を参照して作成する。そのため、復命書を参照した際に自動的に該当の年度別調査簿からデータを取得できるとよいことから案②となった。

#	内容	メリット	デメリット	評価
案①	復命書作成年度によるモーダル表示	△ ・対応工数低	△ ・年度別調査簿で更新された情報は別途入力が必要 ・収穫予定簿更新時に都度モーダル表示するため業務効率の低下	△
案②	年度別調査簿のデータを常に参照	○ ・年度別調査簿の常時参照による復命書との乖離懸念の解消	○ ・対応工数中	○
案③	復命書/年度別調査簿から参照先を選択	○ ・参照先を自由に選択可能	△ ・常にモーダル表示するため業務効率の低下 ・対応工数高	△

#29【収穫】
払出情報一括入力

Agenda

01　本課題について

02　対応案①（払出情報一覧の作成）

03　対応案②（復命書一覧で一括登録）

本課題について

本紙では課題一覧の内、＃29ついて整理・検討する。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブ システム	課題タイトル	課題内容	優先度
29	収穫	払出情報一括入力	収穫の実行結果（収穫量）を払出として登録するが、復命書に対応して登録するため、復命書単位での入力になる。 他サブで予定簿等の一括入力を実装したように、払出情報登録についても一覧から一括入力したい。	

弊社理解

払出情報の登録作業が現行システム上では復命書をひとつずつ選択して登録処理を行っている。

業務上、払出情報を複数まとめて登録するケースが存在するため、一括入力できる機能を次期システムでは実現したい。

（※さらに復命書及び予定簿についても一括入力できる機能を次期システムで実現したい）

対応案①（払出情報一覧の作成）

払出情報登録用の一覧を新規作成し、払出情報を一括登録できる動線を準備する。

案①-1 払出情報 一覧 モーダル	• 払出情報一覧を新規作成し、払出情報登録用のボタンを配置 • 複数の復命書をまとめて選択させ、払出情報を入力するモーダルを作成
案①-2 払出情報 一覧 DL→UL	• 払出情報一覧を新規作成し、払出情報登録用ファイルの出力ボタンを配置 • 一覧から、払出情報登録の対象を選択させて、DL→ULさせる

※案①-2　動線イメージ　[造林　造林予定簿一覧]

対応案②（復命書一覧で一括登録）

復命書の一覧上に、払出情報を一括登録できる動線を準備する。

案②-1 復命書一覧 モーダル	• 復命書の一覧上に、払出情報登録用のボタンを配置 • 複数の復命書をまとめて入力するモーダルを作成
案②-2 復命書一覧 DL→UL	• 復命書の一覧上に、払出情報登録用ファイルの出力ボタンを配置 • 一覧から、払出情報登録の対象を選択させて、DL→ULさせる

■　確認事項
案②の場合、払出登録の動線は復命書一覧、予定簿一覧どちらにすべきか

※案②-1　動線イメージ　[製品生産・販売　野帳/椪一覧]

課題#30
立木補償料等、システム上の評定を経ない実行簿直接入力のフロー及び画面

課題#30について

収穫実行簿情報入力画面で復命書番号からその復命書の情報を参照したい、という課題です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
30	収穫	立木補償料等、システム上の評定を経ない実行簿直接入力のフロー及び画面	立木補償料等、システム上の評定を経ない実行簿直接入力のフロー及び画面 ▼理由 立木補償料は、立木調査野帳があるにも関わらず立木価格評定を行わないため、契約明細を入力するタイミングで実行簿を直接入力している。立木調査野帳を実行簿に紐づけ管理したいから。 ▼説明 立木補償料は、業務G（経営係）で計算せずに、総務G（管理係）で補償料として計算した上で、これを契約明細の金額として直接入力している。この際、その補償料に紐づく実行結果として実行簿を直接入力しているが、本来であれば、立木調査野帳から、立木補償料として評定され、払出によって実行簿データが生成されるべきであり、払出による実行簿の計上は、一般的（補償料でない）な立販の場合の流れとなる。	中

弊社理解

・局により立木補償料の評定の仕方が異なるため、実行簿直接入力のフローは残す必要がある 。
・工程1では収穫実行簿情報入力画面で復命書を参照することができない。
・収穫実行簿と復命書で入力する情報はほとんど共通している。

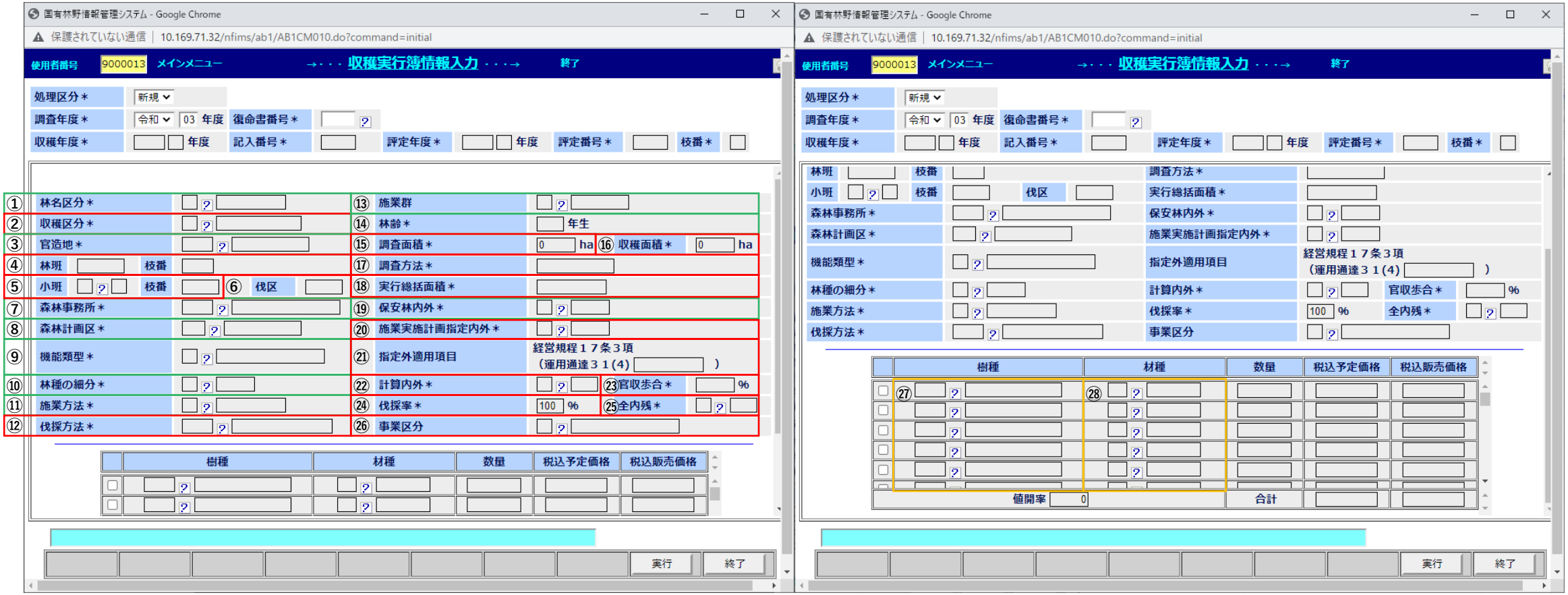
バリエーション整理

	東北局	関東局	近中局	四国局
復命書を作成しているか	△	○	○	○
評定を実施しているか	△	△	○	○
直接入力を使用しているか	○	○	○	×

復命書情報の収穫実行簿への参照方法と参照カラム

凡例
- 復命書参照
- 立木調査野帳参照
- 年度別調査簿参照

復命書番号を入力し、参照ボタンを押下することで復命書の情報を収穫実行簿に反映します。入力された復命書番号が存在しない場合には、実行簿直接入力として復命書の新規作成を行います。また、復命書参照時の実行簿情報入力画面への参照カラムは以下の28個の想定です。



※工程1の「(機2)(庁内限り)02章_収穫_03画面項目説明_202501.doc」から抜粋

課題#33
収穫データの製品生産への共有

課題#33について

収穫予定簿の情報を製品生産に共有したい、という課題です。ただ、本課題はすでに工程2-1で実装済みの認識です。

※「課題一覧.xlsx」より抜粋

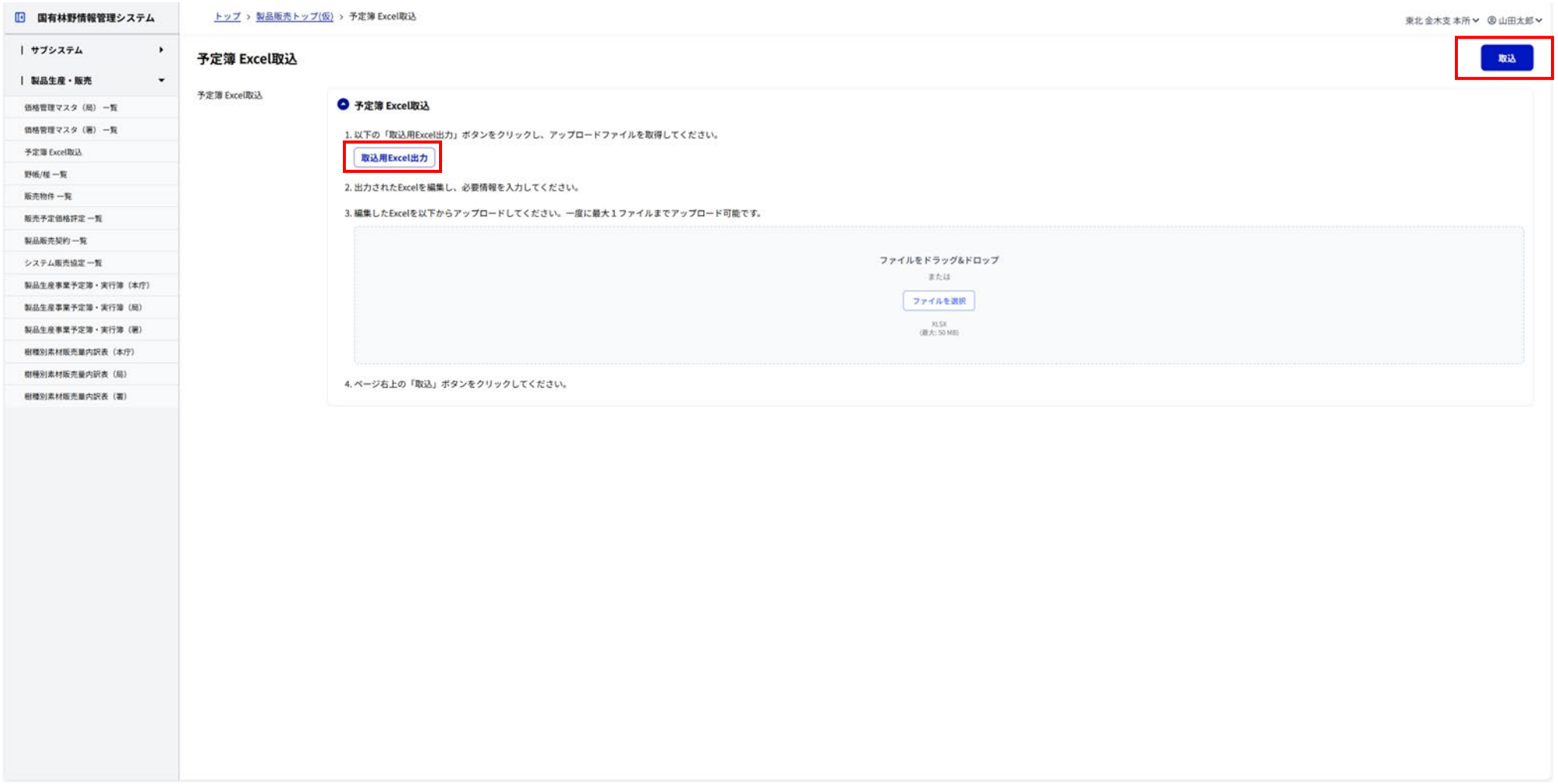
#	サブシステム	課題タイトル	課題内容	優先度
33	収穫	収穫データの製品生産への共有	製品生産と収穫の情報をシステム上で紐づけてほしい。 ▼理由 入力した予定簿情報の記番と収穫調査復命書の記番がリンクされていないため。 ▼説明 製品生産において、予定簿をCSV取込として実装している。この実装に合うように収穫側でもデータを製品生産予定簿等に共有できるような作りとする。	中

弊社理解

・工程1では、製品生産と収穫の情報はシステム外でデータを受け渡している。
・工程2-1で製品生産・販売予定簿Excel取込画面から復命書の取込機能を実装済み。

製品生産での復命書取込機能

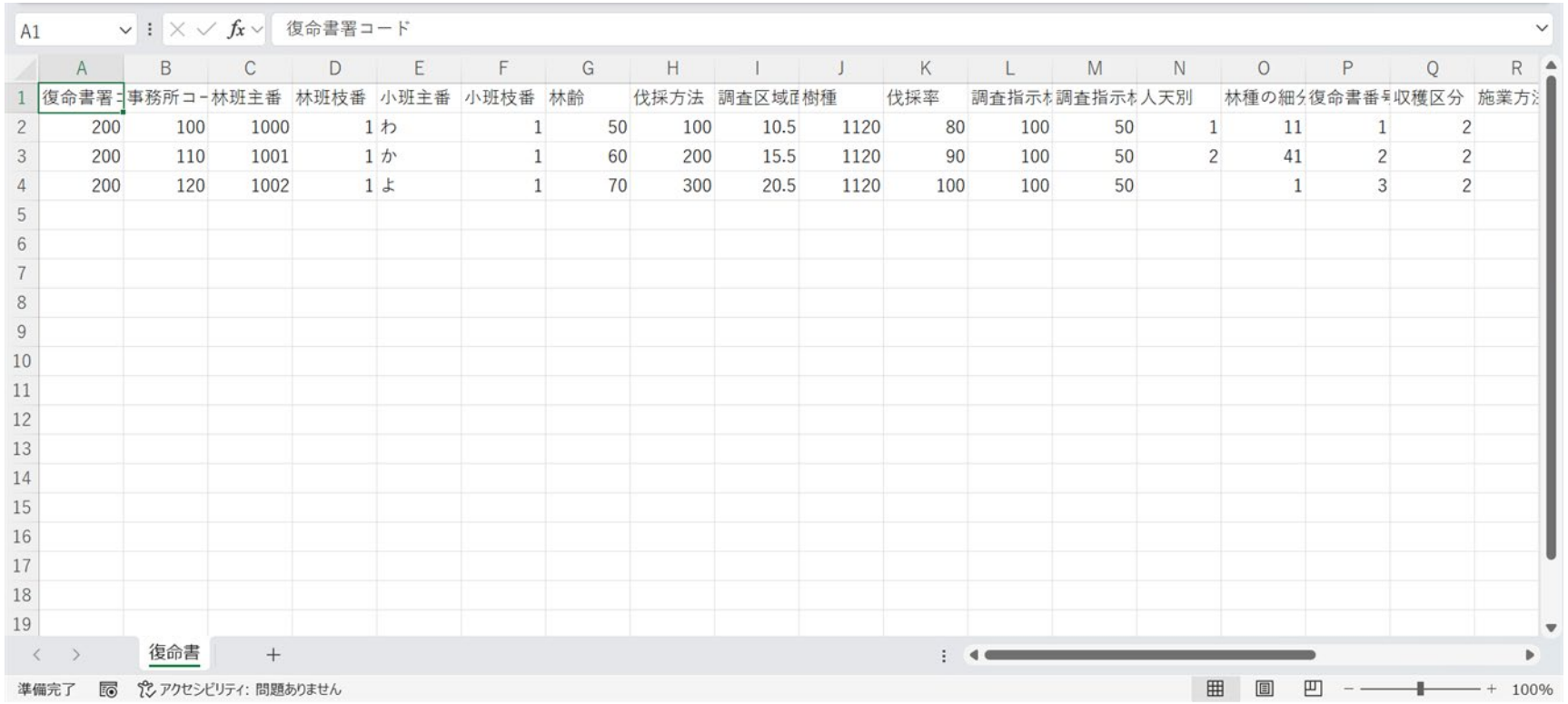
製品生産・販売予定簿Excel取込画面を示します。取込用Excel出力ボタンを押下することで復命書情報を出力することが可能です。



Appendix

取込用Excel出力で出力される復命書情報

取り込まれた復命書情報を以下に示します。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	復命書署コ	事務所コー	林班主番	林班枝番	小班主番	小班枝番	林齢	伐採方法	調査区域面	樹種	伐採率	調査指示木	調査指示木	人天別	林種の細分	復命書番号	収穫区分	施業方法
2	200	100	1000	1	わ	1	50	100	10.5	1120	80	100	50	1	11	1	2	
3	200	110	1001	1	か	1	60	200	15.5	1120	90	100	50	2	41	2	2	
4	200	120	1002	1	よ	1	70	300	20.5	1120	100	100	50		1	3	2	
5																		
6																		
7																		
8																		
9																		
10																		
11																		
12																		
13																		
14																		
15																		
16																		
17																		
18																		
19																		